

October 2024
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

PHIL HARU MONY

終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

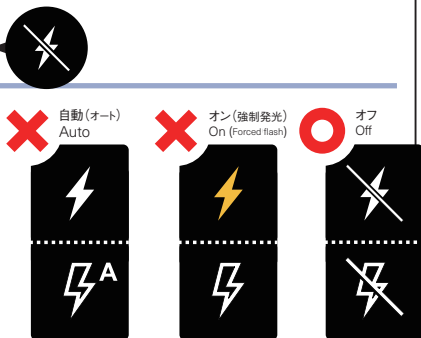
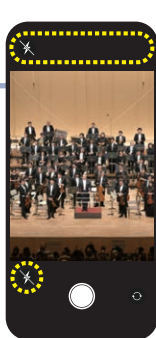


「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください







こちらの2次元コードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:

-  公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.
-  私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.
-  発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.
-  演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、周囲の方へのご配慮にご協力をお願いいたします
When shouting "Bravo," please be considerate of people around you.

PHILHARMONY

CONTENTS

OCTOBER 2024

10

- 4 **ツアー報告** NHK交響楽団 台湾公演 2024
- 8 [公演プログラム] Aプログラム
- 13 [公演プログラム] Bプログラム
- 19 [公演プログラム] Cプログラム
- 24 [シリーズ] N響百年史 | 第49回 | 新交響楽団、訴えられる! 片山杜秀
- 34 [速報] 2025-26定期公演プログラム
- 2 NHK交響楽団メンバー
- 28 2024年11月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 30 チケットのご案内
- 31 2024-25定期公演プログラム
- 37 特別公演／各地の公演
- 41 曲目解説執筆者／Information／N響の出演番組
- 42 特別支援・特別協力・賛助会員
- 46 みなさまの声をお聞かせください!
- 47 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 48 Program A
- 51 Program B
- 54 Program C
- 56 The Subscription Concerts Program 2024-25
- 59 N響関連のお知らせ
- 60 N響の社会貢献
- 61 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴェ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター:篠崎史紀

第1コンサートマスター:郷古 廉

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
飯塚歩夢
○宇根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條大河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理

横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

- ◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
○市川雅典
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

- ◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

- ◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

トランペット

- ◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

- ◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

こちらの2次元コードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。



<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT 東日本

東京海上ホールディングス株式会社

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

Nippon Telegraph and Telephone East Corporation

Tokio Marine Holdings, Inc.

2024年8月、NHK交響楽団は首席指揮者ファビオ・ルイーゼの指揮、台湾を代表するヴァイオリニストのひとり、ポール・ホアン氏の独奏で、8年振りに台湾公演を行いました。今回は台中、高雄、台北の3都市で公演を開催。台北以外でN響が公演を開催するのは今回が初めてで、ファビオ・ルイーゼがN響の海外公演に同行する最初の機会となりました。以下、公演に同行した事務局員によるレポートをお届けします。

NHK交響楽団 台湾公演2024

2024 臺灣巡演 - NHK交響楽団 | 臺中 - 高雄 - 臺北

2024年	8月23日(金)	7:30pm	台中国家歌劇院・大劇院
	8月24日(土)	7:30pm	衛武營音樂庁(高雄)
	8月25日(日)	7:30pm	国家音樂庁(台北)

ウェーバー／歌劇「魔弾の射手」序曲

ブルッフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26






チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

指揮◎ファビオ・ルイーゼ

ヴァイオリン◎ポール・ホアン

主催：公益財団法人NHK交響楽団、國家交響樂團

共催： 公益財団法人
日本台湾交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association

協賛：   AISIN CORPORATION 愛德利亞台灣股份有限公司  

8月22日<木>

前日21日に台北入りしたN響一行。国家音楽庁でのリハーサル前に、台湾プレス向けの記者会見が行われ、ファビオ・ルイーゼ、ソリストのポール・ホアン、NHK交響楽団理事長中野谷公一らが出席し、台湾公演に向けた抱負を語りました。



1. ルイーゼ(右)とホアン(左)

8月23日〈金〉

N響一同は台中へ移動し、台中国家歌劇院・大劇院での公演に臨みます。台中国家歌劇院はさまざまな施設で構成される総合文化施設。設計には日本の建築家・伊東豊雄が携わり、2016年に正式オープンしました。その建物は曲線を生かした独創的なものとなっており、台中の芸術文化の中心地となっています。

前半のブルッフ《ヴァイオリン協奏曲第1番》



2. 台中国家歌劇院
3. 一緒にアンコールを演奏するホアン(右)と郷古(左)
4. 台中公演終了後、大きな拍手を贈られるルイージとN響



のポール・ホアンのソロに、聴衆は熱狂的な歓声で応えます。そしてアンコールではホアンの希望により、N響第1コンサートマスター郷古廉との二重奏を披露。「台湾と日本の交流はこれまでとても親密でした。今回の共演で台日交流の新しいページをひらきたい」というホアンの言葉とともに、音楽による文化交流が行われた一幕となりました。

そして後半のチャイコフスキー《交響曲第5番》ではルイージとN響のコビによる壮大なサウンドが展開され、会場からは大きな拍手と歓声が贈られました。



©Ching-Yuan Lin (Provided by NSO of Taiwan)

8月24日(土)

台中公演の興奮が冷めやらぬまま、N響一同は高雄へ移動。衛武營国家芸術文化中心・音楽厅での公演に臨みます。衛武營国家芸術文化中心は台中国家歌劇院に続いて2018年に正式開業した、台湾で3つ目、台湾南部で

は初の国立ホールとなります。

会場の音楽厅は舞台を客席が囲むワインヤード方式。豊潤な響きが会場を包みます。高雄でも聴衆は変わらず熱狂的で、前半ブルッフが終わると会場からは大きな拍手が起こります。後半チャイコフスキーの充実した響きが会場を満たすと、高雄での公演も台湾の人々の歓声と共に終演しました。



©Ching-Yuan Lin (Provided by NSO of Taiwan)

5. 衛武營国家芸術文化中心
6, 7. 高雄公演の様子



8月25日<日>

8



休む間もなくN響は台湾高速鉄道で台北に戻り、今回の台湾ツアー最後の台北公演に臨みます。台北の国家音楽庁は、国家戯劇院と並ぶ台北の芸術文化の中心地。前回2016年もN響が公演を行っています。

台北公演ではチケットが完売となり、多くのお客様で会場は埋め尽くされました。開演とともにオーケストラは熱狂的な拍手で迎えられ、前半のブルース、後半のチャイコフスキーと続く

ルイージ&N響サウンドに、会場からは大歓声が贈られました。

終演直後は指揮者、ソリストの出演者陣、そしてN響楽員にも充実した表情が見られ、この台湾公演が成功裡に終わったことを物語っていました。

今回の台湾公演は、各地への移動直後に公演という日程が続きハードなスケジュールで行われました。さらにその合間には金管楽器のメンバーが小学校を訪れて児童たちと交流し(高雄)、弦楽器のメンバーは商業施設でミニコンサートを行うなど(台北)、盛りだくさんの内容となりました。

これからの日台交流の一助となったのではないかと、手ごたえを感じています。また今後も世界に向けて、音楽による交流を深めていければと思います。

[石井 康／演奏制作部 副部長]

9



©Ching-Yuan Lin (Provided by NSO of Taiwan)

10



11



8. 台北公演の会場、国家音楽庁(右)と国家戯劇院(左)
9. 今回のツアー最後となる台北公演の様子
10. 金管楽器のメンバーが、高雄の中正国民小学校を訪問(8/24)
11. 弦楽器のメンバーが台北の商業施設 BELLA-VITA でミニコンサートを開催(8/25)

PROGRAM

A

第2020回

NHKホール

10/19 土 6:00pm

10/20 日 2:00pm

指揮 ヘルベルト・ブロムシュテット

コンサートマスター 川崎洋介

カバーコンダクター ゲルゲイ・マダラシュ♦

◆ゲルゲイ・マダラシュ:ベルギー王立リエージュ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督。これまでにディジョン・ブルゴーニュ管弦楽団音楽監督、祖国ハンガリーのサヴァリア交響楽団首席指揮者を歴任。1984年、ブダペスト生まれ。5歳からハンガリーやトランシルヴァニア、農民音楽家たちの民族音楽に触れ、その後、クラシックのフルート、ヴァイオリン、作曲を学ぶ。ブダペストのリスト・アカデミーのフルート科、ウィーン国立音楽大学の指揮科をそれぞれ卒業している。N響とは2023年11月の定期公演で初共演し、ハンガリー・プログラムで好評を博した。

オネゲル

交響曲 第3番「典札風」[30']

- I 怒りの日
- II 深い淵から
- III われらに安らぎを与えたまえ

—— 休憩(20分) ——

ブラームス

交響曲 第4番 ホ短調 作品98[42']

- I アレグロ・ノン・トロツボ
- II アンダンテ・モデラート
- III アレグロ・ジョコーソ
- IV アレグロ・エネルギーコ・エ・パッションナート

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ヘルベルト・ブロムシュテット (指揮)



2024年7月に97歳の誕生日を迎えたヘルベルト・ブロムシュテットは、世界最高齢の現役指揮者である。1927年にアメリカで生まれ、両親の祖国スウェーデンに移住。ストックホルム王立音楽院などで学んだ。1954年、ストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団を指揮してデビュー。スウェーデン放送交響楽団をはじめ北欧のオーケストラでキャリアを積み、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団首席指揮者、サンフランシスコ交響楽団音楽監督、北ドイツ放送交響楽団(現NDRエルプフィルハーモニー管弦楽団)音楽監督、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団カペルマイスターなどを歴任。また、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団など、世界の名門オーケストラにも客演している。

NHK交響楽団とは1981年から共演を重ね、1986年に名誉指揮者に就任。2013年からは2020年と2023年を除いて、継続的にN響の指揮台に立ち、2016年に桂冠名誉指揮者の称号が贈られた。

今回は、自身の指揮者人生を総括するような3つのプログラムを披露する。Aプロのオネゲルとブラームスの交響曲は、牧師の息子として生まれ、深い信仰をもつマエストロと静かに響き合う。Bプロは自身のルーツである北欧の作品、Cプロはその内奥へと迫るシューベルトの2大交響曲。彼が導く叙情的で思索的な音楽は聴き手の心に長く深く刻まれるだろう。

[柴辻純子 / 音楽評論家]

Program Notes | 神保夏子

後期ロマン派の巨匠ブラームスとスイス＝フランスの前衛オネゲル。一見やや意外な取り合わせとも思える2人の作曲家には、J. S. バッハへの深い敬愛、そして時代の潮流に抗うかのような古典的なジャンルの愛好という共通項がある。彼らの円熟期の作品である2つの交響曲はまた、人類の苦難と神による救済という共通の主題によっても遠く繋がっている。災禍の時代に寄せてブロムシュテットが祈りを込めて紡ぐ音楽に、我々はいま何を読み取るのか。

オネゲル

交響曲 第3番「典礼風」

アルテュール・オネゲル(1892～1955)は、1920年代に若手音楽家集団「六人組」の一員として活動したことで知られる、フランス生まれのスイス系音楽家である。もっとも、第

2次世界大戦末期から終戦直後の時期にかけて作曲されたこの交響曲は、^{しゃだつ}軽妙洒脱で楽天的な「六人組」の作風とは正反対のきわめてシリアスな性格をもっている。オネゲルはこの作品のなかで「近年我々を囲み続ける蛮行、愚行、苦難、機械化、官僚制の風潮への近代人の反応」を描こうとしたと述べているが、そうした「蛮行」には当然、ナチスによる占領という壮絶なトラウマをフランスの人々に経験させた直近の戦争も含まれているだろう。

3つの楽章のそれぞれにローマ・カトリックの典礼に由来するタイトルを冠した(ただし、それらに対応する単旋聖歌の旋律が引用されるわけではない)この交響曲は、その名の通り宗教的なメッセージ性をもつ標題音楽であり、そこにみられる物語性や劇的な対比の効果は、作曲者がオペラ=オラトリオと呼ばれるジャンルでも成功を収めた人物であったことを思い起こさせる。第1楽章〈怒りの日〉で描かれるのは「神の怒りに直面した人類のおののき」であり、おぞましいほどに不穏な楽想が次々と現れるなか、神の裁きを暗示するファンファーレが不吉に鳴り響く。一方、第2楽章〈深い淵から〉はメロディストとしてのこの作曲家の真骨頂であり、さまざまな楽器によって歌い継がれてゆく祈りのような旋律の美しさは特筆に値する。楽章を締めくくるフルートの高らかな主題は平和を象徴する鳥の歌である。第3楽章〈われらに安らぎを与えたまえ〉では、軍隊を想起させる行進曲風のリズムの上で、人類の愚行がグロテスクに表現される。クライマックスで不協和音による絶望の叫びが連続的に奏されたのち、一瞬の沈黙を経て、待ちわびた平和の到来を思わせる穏やかな音楽がはじまる。終盤ではピッコロによる鳥の歌が回帰し、嬰ハ長調の天国的な響きのなかで作品は静かに終息する。

作曲年代	1945～1946年
初演	1946年8月17日、シャルル・ミュンシュ指揮、トナール劇場管弦楽団、チューリヒ
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、中太鼓、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、トライアングル、タムタム、ピアノ、弦楽

ブラームス

交響曲 第4番 小短調 作品98

1884年夏、ウィーンの西南に位置する田舎町ミュルツツシューラクで、ヨハネス・ブラームス(1833～1897)は彼の最後の交響曲に取り掛かっていた。休暇を終えてウィーンに戻るところには最初の2楽章をほぼ書き上げていたが、周囲から新作の詳細を尋ねられても彼は固く口を閉ざしていた。翌年の夏、ブラームスは交響曲を完成させるために再びミュルツツシューラクに赴くが、作品の断片を添えて同地から送られた友人あて

の手紙には「このあたりでは桜桃は甘くならず、食べられません」と意味深長なコメントを記している。要するに彼は、自らがこの地で生み出しつつあった「甘く」はない果実——本人の言葉を借りるなら「嘆きや悲劇的なもの」に満ちたこの交響曲——が当時の聴衆に受け入れられるものか、大いに危惧していたのである（もっとも、同年秋に行われた初演はすこぶる好評で、作曲者の心配は杞憂に終わったわけだが）。

ブラームスの全4作の交響曲のなかで唯一短調に始まり短調に終わる本作の性格は、美しくも憂愁に満ちた**第1楽章**の第1主題にすでに表れている。ため息のような音型を特徴とするこの主題は、同楽章全体の構造的な核となる3度音程の連なり（シーソーミードーラー#ファー#レーシ）から構成されており、再現部においてはややカムフラージュされた拡大形で現れる。つづく**第2楽章**はホ長調ではあるが、ホルンと木管による序奏は古風なフリギア旋法によっており、これを受け継いだ第1主題もまた同種の寂寥感^{せきりょう}を漂わせる。アレグロ・ジョコソ（快速に、楽しげに）の指示をもつ**第3楽章**は、他の楽章とコントラストをなす開放的な性格をもち、初演時には聴衆からアンコールを求められたという。**終楽章**は一種のオスティナート変奏曲であり、冒頭に提示される8小節の厳粛なバス主題はバッハの教会カンタータ第150番終曲のシャコンヌ（固執低音〔オスティナート・バス〕にもとづく変奏曲形式の舞曲）からの引用であることが知られている。古楽の研究に熱心であったブラームスは、1874年に知り合いの音楽学者を通じて当時未出版であったこのカンタータの楽譜を入手しており、本作に着手する2年も前からこのシャコンヌのバス主題による楽章を書きたいという構想を語っていた。引用元の原曲の合唱は、オネゲル作品の標題にも通じる「苦しみにある私の日々を／神は喜びへと終わらせてくれる」というテキストをもっており、ブラームスによるその変奏の「悲劇的」なありかたは、単なるバロック趣味を超えた重層的な意味合いをもうかがわせる。

作曲年代	1884～1885年
初演	1885年10月25日、作曲家自身の指揮、マイニンゲン宮廷管弦楽団
楽器編成	フルート2（ピッコロ1）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、トライアングル、弦楽

オネゲルはフランス「六人組」のひとりとして知られ、蒸気機関車が走る様子を彷彿させる代表作《パシフィック231》のように、モダニズムの作風で人気を博した。映画やラジオなど新しいジャンルにも多くの音楽を書き、さぞ未来志向かと思いきや、意外と本人はバッハをはじめとするドイツ音楽の伝統を重んじていた。本日演奏される《典礼風》は、カトリックの典礼から取られた言葉が各楽章の標題に付されている宗教的作品。戦争の暗い体験が、そのままシリアスな曲調でまとめ上げられた作曲家屈指の傑作だ。

A
2024
OCTOBER
[第20回]
🎻🎷🎹



鳥の歌に託された平和

アルテュール・オネゲル

Arthur Honegger (1892–1955)

張りつめた緊張感にあらわれる。怒り、哀訴、絶望
あらあらしい曲想が渦巻くなか、
一筋の希望のように鳥がさえずる――

イラストレーション ©IKE

六人組

サティに次ぐ世代で、新古典主義的な新しい音楽の方向を模索しながらパリで活動していたオネゲル、プーランク、ミヨー、タイユフェール、デュレー、オーリックらは「六人組」と呼ばれた。オネゲルはその中心的な人物であったが、6人そろっての活動は数えるほどしかなく、それぞれの個性が新時代を切り拓いていった。



B

第2019回

サントリーホール

10/10 木 7:00pm

10/11 金 7:00pm

指揮	ヘルベルト・ブロムシュテット プロフィールはp. 9
クラリネット	伊藤 圭
コンサートマスター	郷古 廉
カバーコンダクター	ゲルゲイ・マダラシュ プロフィールはp. 8

シベリウス

交響詩「4つの伝説」作品22

—「トゥオネラの白鳥」[10']

ニルセン

クラリネット協奏曲 作品57 [24']

— 休憩 (20分) —

ベルワルド

交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」

[30']

- I アレグロ・リソルテ
- II アダージョ
- III スケルツォ:アレグロ・モルト—トリオ
- IV 終曲:アレグロ・ヴィヴァーチェ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

伊藤 圭 (クラリネット)



宮城県出身。東京藝術大学卒業。これまでに千石進、日比野裕幸、野田祐介、山本正治、三界秀実、村井祐児に師事。2004年に第6回日本クラリネットコンクールで第1位を受賞、2006年には第74回日本音楽コンクール入選。2014年に東京藝大「創造の杜」においてユン・イサン《クラリネット協奏曲》のソリスト、2019年には「天皇陛下御即位30年奉祝感謝の集い」での特別奉祝演奏としてモーツァルト《クラリネット協奏曲》のソリストを務めた。デビューアルバム『Rêveusement レヴーズマン 近代フランス作品集』のほか、数多くのCDをリリース。東京音楽大学特任准教授、東京藝術大学、国立音楽大学講師として後進の指導にもあたる。

藝大フィルハーモニア、東京都交響楽団を経て、2011年よりNHK交響楽団首席奏者。2022年8月のN響室内楽コンサートにも出演し、ヒンデミット《管楽器のための七重奏曲》などを披露した。今回演奏される《クラリネット協奏曲》はニルセン最晩年の作品で、技巧を要する難曲。流麗ながらもインパクトのある響きに期待したい。

Program Notes | 小林ひかり

フィンランドのジャン・シベリウス(1865~1957)、デンマークのカール・ニルセン(1865~1931)、スウェーデンのフランツ・アドルフ・ベルワルド(1796~1868)の作品による北欧プログラム。スウェーデン人指揮者プロムシュテットが学生時代に師事したトール・マンは、ベルワルドの孫弟子で、シベリウスやニルセンを直接に知り、北欧音楽の演奏に功績を残した指揮者であった。マンの薫陶を受けたプロムシュテットは、長くこよなく敬愛する彼らの作品をどんな演奏で聴かせてくれるのか、期待が高まる。

シベリウス

交響詩「4つの伝説」作品22—「トゥオネラの白鳥」

シベリウスは、フィンランドの民族叙事詩『カレワラ』から題材を取った作品をいくつか残している。その中には、7つの交響曲に先立つ大作《クレルヴォ》(1892年完成)から、《交響曲第7番》よりも後の交響詩《タピオラ》(1926年作曲)までである。彼は生涯にわたり、この祖国に古くから伝わる神話や伝説の世界に関心を抱き、独自の音楽語法を開拓したのであった。

「レンミンカイネン」とも呼ばれる《4つの伝説》もそのひとつで初期の代表作。作曲当初、シベリウスはワーグナーの影響を受けてオペラ《船の建造》(未完)の構想を練り、〈トゥ

オペラの白鳥)はその序曲として1893年に書かれた。しかし、オペラの作曲を進めるうちに交響詩の方が自分に向いていると悟り、〈トゥオネラの白鳥〉を含む4曲をまとめて管弦楽組曲の形で1895年に完成させた。

〈トゥオネラの白鳥〉のもとになった『カレワラ』第14章では、美男で好色なレンミンカイネンが、トゥオネラ(フィンランドの神話における死者の国)と生者の国を分ける黒い川を泳ぐ白鳥を一矢で射るという課題を与えられるが、それを遂行する前に彼は殺される。シベリウスの音楽はその物語の進行を表すのではなく、川に浮かぶ幽玄な白鳥を想像させる。

曲を通して、イングリッシュ・ホルンの独奏が白鳥の調べを奏する。弦楽器主体のオーケストラの清冽な響きがこれを支える。時折チェロ独奏の低音から上るメロディが陰影を与える。一貫して神秘的な気分の中、緊張を^たなえながら曲は進む。中ほどではヴァイオリンのピチカートによる伴奏で動きが増し、さらに管楽器とハープが加わって幻想的な高揚感に包まれる。最後は冒頭の気分に戻り、消え入るように曲は閉じられる。

作曲年代	1893～1895年。1897年、1900年に改訂
初演	1896年4月13日、ヘルシンキ、作曲家自身による指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー協会
楽器編成	オーボエ1、イングリッシュ・ホルン1、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トロンボーン3、ティンパニ1、大太鼓、ハープ1、弦楽

ニルセン

クラリネット協奏曲 作品57

ニルセンは《交響曲第5番》(1920～1922年作曲)に取り組んでいた頃にコペンハーゲン管楽五重奏団のメンバーたちと親しくなり、彼らのために軽妙でユーモアに富んだ《管楽五重奏曲》(1922年完成)を作曲した。ニルセンはさらに、五重奏団のひとりひとりのために協奏曲を書くことを約束したと言われている。まず《フルート協奏曲》が完成(1926年)、次いで作曲したのが《クラリネット協奏曲》であった。これを献呈されたクラリネット奏者はオーウ・オクスンヴァズ(1884～1944)。彼はニルセンが1914年まで指揮者を務めていたデンマーク王立管弦楽団に1909年に入団していたので、その能力をニルセンはよく知っていた。「演奏家としての類まれな才能と技術だけでなく、創造力と知識も卓越している」。そして「古い芸術も新しい芸術も受け入れ理解する洗練されたセンスを持つ」、とニルセンは述べている(1921年)。

オクスンヴァズからインスピレーションを得て書かれた協奏曲は、クラリネットという楽器の可能性と奏者の可能性の極限を追求したというべき作品。そのことはオーケストラが小編成なだけにいっそう際立つ。使われる管楽器は独奏クラリネットの他にはファゴットとホルンだけ、打楽器は小太鼓のみである。「各楽器の声部の動きを自由にした」と作

曲者自身が語るように、クラリネットとオーケストラが率直な語り口で、時には戯れるような、また時には鬨争するようなやり取りをする。調性やリズムの扱いでは近代的な傾向を強く示すが、叙情的なメロディも現れる、独特な作品である。

形式的には古典のとおりでなく、ひと続きの楽章にまとめられているが、急—緩—急—急(アレグレット・ウン・ポーコ、ポーコ・アダージョ、アレグロ・ノン・トロppo、アレグロ・ヴィヴァーチェ)の4部分から成り、高度な技巧が要求されるカデンツァは第1部と第3部で登場する。

ニルセンは1920年代の半ばから徐々に体調が悪化しており、オーケストラを用いた大規模な作品としてはこれが最後となった。

作曲年代	1928年4月～8月15日
初演	[非公開初演] 1928年9月14日、デンマーク、ホームレベクのカール・ヨハン・ミケールスン宅、エミール・テルマーニー(ニルセンの娘婿)指揮、オーウ・オクスンヴァズ独奏、デンマーク王立管弦楽団からのメンバーによるオーケストラ [公開初演] 1928年10月11日、コペンハーゲン、オッド・フェロー館大ホール、エミール・テルマーニー指揮、オーウ・オクスンヴァズ独奏、デンマーク王立管弦楽団からのメンバーによるオーケストラ
楽器編成	ファゴット2、ホルン2、小太鼓、弦楽、クラリネット・ソロ

ベルワルド

交響曲 第4番 変ホ長調「ナイーヴ」

ベルワルドは19世紀のスウェーデンを代表する作曲家である。生年はシューベルトに近く、メンデルスゾーンやシューマンとも同じ時代を生きた。

ベルワルドは音楽家の家系に生まれ、父親からヴァイオリンの手ほどきを受けた。宮廷オーケストラ(スウェーデン王立歌劇場管弦楽団)の奏者を務めながら創作活動を行い、ベルリンへ留学もするが、音楽家として生計を立てるのが難しかったため、整形外科を開業すると、これが大成功。それでもやはり音楽家の夢を求めて、1841年にウィーンへ移住する。この年にベルワルドは結婚し、代表作となる4つの交響曲は1845年までの間に書かれるなど(彼はこの時に初めて交響曲を書いたのではなく、1820年に完成した交響曲は断片が残っている)、多作な時期となったが、それでも安定した音楽家の職は得られず、1850年にガラス工場の経営を始める。ストックホルム音楽院教授に就任できたのは、亡くなる前年のことであった。

ベルワルドの交響曲は、ベートーヴェンの影響を受け、その古典的な形式に基づいているが、より明るく軽快な曲調でメンデルスゾーンを思わせるところがある。4つの交響曲のうち、生前に演奏されたのは《第1番》のみで、《第4番》はパリでの演奏の計画が試みられたが上手くいかず、初演が実現したのは作曲家の没後10年のことだった。なお、「ナイーヴ」というタイトルは自筆譜には記されていない。ベルワルドは「天真爛漫」という

つもりでこう呼んでいた時もあったが、否定的な意味を含みうる語であるだけに誤解を避けるためであろうか、最終的にはこのように呼ぶのをやめた。

第1楽章 変ホ長調、4分の3拍子。大きな弧を描くような第1主題と、なだらかなへ長調の第2主題を持つソナタ形式で書かれている。反復音型をふんだんに用い、湧き出る泉のように曲が進行する。

第2楽章 ニ長調、4分の3拍子。歌うような主題が印象的なこの楽章は、4手オルガンのための《田舎の結婚披露宴》(1844年作曲)がもとになっている。アタッカで(切れ目なく)第3楽章に入る。

第3楽章 変ロ長調、4分の3拍子。軽快に駆け抜けるスケルツォ。いくぶん色彩の変わる中間部を持つ。

第4楽章 変ホ長調、4分の2拍子。さまざまな楽想を登場させながら、思いがけない方向へと突き進んでいく。ベルワルドらしい大胆さが際立つ、活気に満ちた楽章である。

ベルワルドの独特な音楽は生前には十分に評価されなかったが、《第4番》の初演で指揮を務めたルードヴィグ・ヌールマンの尽力もあって徐々に認められるようになり、20世紀初頭ようやくステンハンマルらスウェーデンの若い世代の作曲家たちからも重要視されるようになった。

作曲年代	1845年
初演	1878年4月9日、ストックホルム、スウェーデン王立音楽アカデミー、コンサートホール、ルードヴィグ・ヌールマン指揮、スウェーデン王立歌劇場管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

Franz Adolf Bervald (1796-1868)

フランツ・アドルフ・ベルワルド

多芸多才な苦勞人

宮廷オーケストラのヴァイオリン奏者やヴィオラ奏者を務めたり、音楽雑誌を創刊したり——。さまざま試みるも、なかなか音楽家として生計を立てることができず、副業としてはじめた整形外科やガラス工場経営が思いがけず大成功をおさめるという変わった経歴を持つベルワルド。亡くなる直前によく音楽院教授に就けた苦勞人でもあったが、むしろ音楽にとどまらないその多芸多才ぶりに驚嘆するばかりだ。

B

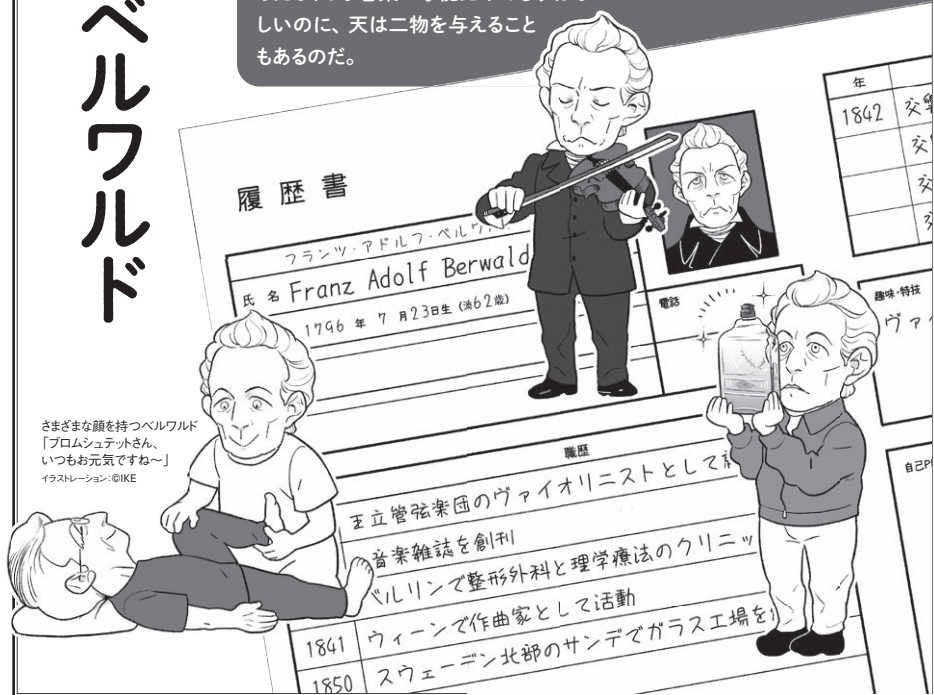
2024
OCTOBER
[第2019回]



兼業音楽家

演奏家「兼」作曲家はよくいるが、音楽「以外」の職業を兼業している作曲家となると、グッと数が少なくなる。農場経営をしていたヴェルディ、化学者であり医師でもあったボロディン、保険会社社長で実業家であったアイヴズ、といったところだろうか。音楽の才能だけでもすばら

しいのに、天は二物を与えることもあるのだ。



C

第2021回

NHKホール

10/25 金 7:00pm

10/26 土 2:00pm

指揮

ヘルベルト・ブロムシュテット | プロフィールはp. 9

コンサートマスター

川崎洋介

カバーコンダクター

ゲルゲイ・マダラシュ | プロフィールはp. 8

シューベルト

交響曲 第7番 口短調 D. 759

「未完成」[25']

I アレグロ・モデラート

II アンダンテ・コン・モート

— 休憩(20分) —

シューベルト

交響曲 第8番 ハ長調 D. 944

「ザ・グレート」[60']

I アンダンテ—アレグロ・マ・ノン・トロppo

II アンダンテ・コン・モート

III スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェトリオ

IV 終曲:アレグロ・ヴィヴァーチェ

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは46ページをご覧ください



こちらの2次元コードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

フランツ・シューベルト(1797~1828)が最初に手掛けた創作のひとつが交響曲であった。彼は最後の交響曲《交響曲第8番》を作曲するまでの間、実にさまざまな影響を受け、試行錯誤を繰り返した。そして1819年頃から、弦楽四重奏曲やピアノ・ソナタなど多様なジャンルの器楽作品において未完成の作品が続出する。《交響曲第7番「未完成」》は何を意味しているのであろうか。この時期を脱したシューベルトは晩年の創作へと向かい、《交響曲第8番》を生み出すことになる。

シューベルト

交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」

この作品は1822年10月30日に作曲が開始され、第1楽章と第2楽章の2つの楽章は完成されたものの、第3楽章はスケッチのまま完成することなく残された。本作品は多くの謎を含んでいる。シューベルトは、1823年になって完成した2つの楽章をグラーツのシュタイアーマルク協会のアンゼラム・ヒュッテンブレンナーに送る。ヒュッテンブレンナーはこの未完成の楽譜を保管したものの、そのまま忘れ去られ、約40年後の1865年にヨーハン・ヘルベックによって発見された。もちろんヒュッテンブレンナーはこの2楽章は未完成のものであるという認識をもっており、その後の楽章が作曲されるものと思っていたであろう。しかし、未完成の作品をシューベルトは何故にヒュッテンブレンナーに送ったのであろうか。そして、スケッチの形であれ、ほとんど書き上げられていた第3楽章を彼はなぜ完成しなかったのだろうか。シューベルトにはこの時期に何作もの未完成の交響曲が残されているが、本作品は彼の全く新しい世界を示している点でまさしく傑作で、今日に至るまで世界中で演奏されている。

第1楽章(アレグロ・モデラート、ロ短調、3/4拍子)。幽玄で劇的なこの第1楽章はこれまでのシューベルトの交響曲には見られない、きわめて独創的で感動的な表現である。低弦楽器が奏する序奏動機は、この作品の重要なモットーの役割を担う。この動機は、最初の3音の上行進行の動機とそれに続く下行動機、そして嬰へ音の保続音からなる。最初の3音の動機は第1楽章の主題の基礎動機であるが、第2楽章の主題にも用いられる。低弦楽器による冒頭の動機を受けて、ヴァイオリンがさざなみのように表現する。この16分音符の動機は《弦楽四重奏曲ハ短調》の冒頭の序奏動機との結びつきを感じさせる。

第2楽章(アンダンテ・コン・モート、ホ長調、3/8拍子)も注目すべき楽章である。第1楽章の動機をたくみに用いて、さまざまに揺れ動く感情を絶妙な転調によって表現している。ファゴットとホルンの奏する3小節の動機に導かれて第1ヴァイオリンによって主題が提示され、冒頭の3小節の動機をコントラバスがピチカートで奏する下行音階で支える。

作曲年代	1822年
初演	1865年12月17日、ウィーン楽友協会演奏会、ヨーハン・ヘルベックの指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

シューベルト

交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」

1824年、友人のクペルヴァイザー宛の書簡でシューベルトは新作の交響曲の意欲を述べ、翌年にグムンデンやバード・ガシュタインで作曲を進める。友人のオッテンヴァルトは「(シューベルトは)グムンデンで交響曲を一曲作曲し、これは冬にウィーンで演奏されるはずです」と述べている。そのことからこの交響曲は一時、「グムンデン・ガシュタイン交響曲」と命名された。しかし、この作品はシューベルトのウィーン楽友協会準理事就任と関連した作品であることがわかり、「第8番交響曲」とであるとみなされるに至った。事実、彼は1826年にハ長調の交響曲を楽友協会に提出しており、それがこの《交響曲第8番》にあたる。研究者のオットー・ビーバはウィーン楽友協会においてこの交響曲のパート譜の筆写人の領収書を発見したことから、準理事就任の折に何らかの形で演奏された可能性も考えられている。作品は1839年にウィーンを訪れたシューマンが見出し、同年メンデルスゾーンの指揮で初演された。

第1楽章は壮大な序奏(アンダンテ、ハ長調、2/2拍子)を伴い、その後主部(アレグロ・マノン・トロポ、ハ長調)に入る。序奏は朗々としたホルンによって開始する。主部の第1主題は弦楽器による弾むような付点リズムで始まり、管楽器による同音反復がそれに応える。続くホ短調の第2主題はややメランコリックな楽想で、オーボエとファゴットで提示される。トロンボーン奏する第1主題の表現は印象的である。楽章はソナタ形式で構成され、展開部は変イ長調で第1主題に基づく動機で始まる。

第2楽章(アンダンテ・コン・モート、イ短調、2/4拍子)。低弦楽器による前奏に続いてオーボエが美しい主要主題を提示する。その後オーボエによる優美な新しい旋律が第2ヴァイオリンの旋律を伴って奏される。フォルティッシモで奏されるトゥッティは優美な冒頭主題とは対照的な雰囲気、楽章構成で大きな役割をもつ。

第3楽章(スケルツォ、アレグロ・ヴィヴァーチェ、ハ長調、3/4拍子)。躍動感溢れる楽章で、弦楽器群がトリルの動機で始まる主題動機を奏するとオーボエとフルートがそれに応える。中間部分のトリオはイ長調で、弱音で奏される同音反復で始まり、クレッシェンドして管楽器群が力強く中間主題を提示する。

第4楽章(終曲:アレグロ・ヴィヴァーチェ、ハ長調、2/4拍子)。壮大なスケールの楽章で、その規模は第1楽章を凌駕する。第1主題はトゥッティの付点リズムで開始する。このリズムは

C

25 & 26, OCT. 2024

このフィナーレにおいて重要な役割を持ち、第1主題は晴れやかな楽想である。その後オーボエとファゴットで主題の後楽節ともいうべき新主題が示され、第2主題は保続音を背景に管楽器によって提示される。

作曲年代	1825年?～1826年?
初演	確認できる限りでは、1839年3月21日、ライプツィヒ、フェーリクス・メンデルスゾーンの指揮、ゲヴァントハウス管弦楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

C

25 & 26, OCT, 2024

才人たちに推される作曲家

フランツ・
シューベルト

Franz Schubert (1797-1828)

いまの人気ぶりからは思いもよらないが、シューベルトの交響曲はいずれも生前に公開演奏されることがなかった。《ザ・グレート》も作曲者の死後に評価され演奏された作品だ。埋もれていた作品を見出したのは、当時第一線の作曲家であり音楽評論活動もしていたシューマン。そして初演の指揮をしたのは、ライブツィヒでゲヴァントハウス管弦楽団を率いていた才人メンデルズゾーンだ。2人とも、シューベルトを推してくれてありがとう！



メンデルズゾーンの演奏を
シューマン(右)とともに草葉の陰から
見守るシューベルト(左)
イラストレーション: ©IKE

《ザ・グレート》

シューベルトの音楽は、音や音型のくり返しが多い。そしてこの反復がえも言われぬ時間体験を生む。ベートーヴェンとはまた違い、手をかえ品をかえ旋律の色合いを変化させながら楽園的な愉悅をもたらす音楽。《グレート》を見出したシューマンも「天国的に長い」と作品を絶賛した。この作品ならではの時間を、ゆっくり噛みしめながら楽しみたい。

N響百年史

第四十九回 — 新交響楽団、訴えられる！

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK—FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。近衛秀麿の後任として、遂にローゼンシュトゥック来日——かと思いきや、レオニード・クロイツァーとの間にトラブルが勃発します。

近衛と日本放送協会との密約

1936(昭和11)年の新交響楽団(現NHK交響楽団)の楽員たちは、なお近衛秀麿^{このえひでまる}の影に脅えていた。追い出すことにはとりあえず成功したはずの近衛が、日本放送協会とうまくやって返り咲いてはこないか。さすがにそうはならずとも、なんらかのかたちで近衛のオーケストラへの影響力が間接的に残ってしまう可能性があるのではないか。そう心配していたのである。

その芽をすっきり摘んでしまうためには、一刻も早く近衛に代わる音楽監督に相当する指揮者を迎えねばならない。そこに貴志康一が現れたり、4月にウィーンから来日したワルター・ヘルベルトに期待がかけられたりもした。が、貴志は病に倒れ、ヘルベルトも日本に長居する気はなかった。貴志に代わる日本人指揮者を求めることは難しい。たとえば楽団内部に齋藤秀雄がいることはいたが、当時の彼は指揮もするチェロ奏者であって、楽団員のリーダー格ではあるけれど、音楽監督になるべき立場とは思われない。やはりそれなりに名のある指揮者を本場から新たに招くほかないだろう。新交響楽団はさまざまな伝手^{てんて}を頼って欧州楽壇のあちこちに声を掛けた。ねらい目はナチスと折り合いが悪く、外国にポストがあれば積極的に行きたくしている独逸^{どくおつ}圏の指揮者たちである。

たとえばウィルヘルム・シュタインベルク(1899~1978)。フランクフルト歌劇場で振っていたが1933年のヒトラー政権誕生で仕事を奪われていた。東京での仕事にかなり興味を示した。が、まとまらなかった。彼は結局パレスチナに行き、第2次世界大戦後には米国で活躍して、ピッツバーグ交響楽団やボストン交響楽団を率いた。その頃は英米人風^{あざな}に名乗ってウィリアム・スタイ

ンバーグとして知られた。それからパウル・ブライザッハ(1896~1952)。ウィーンで音楽理論家ハインリヒ・シェンカーに学び、ベルリンでオペラ指揮者として活動していたが、ナチスの時代になって行きどころに困っていた。東京に来てくれるかと思われた。が、彼は結局、極東でなく米国に仕事を求め、メトロポリタン歌劇場などで振るようになった。さらにカール・バンベルガー(1902~1987)。ブライザッハと同じくウィーンでシェンカーに学び、ダンツィヒやダルムシュタットの歌劇場でポストを得ていたが、ナチスを避けて新たな落ち着き先を探していた。彼とも話はある程度までは進んだようだ。でも破談になった。バンベルガーもまた米国に渡った。

なかなか埒が明かない！オーケストラが弱り果てているところに登場したのが、ヨーゼフ・ローゼンシュトックである。彼自身が新交響楽団に手紙を送ってきた。楽団員の幹部でティンパニ奏者の小森宗太郎の証言に従えばそうである。東京でのポストに興味があるというのだ。たぶん、1936(昭和11)年の5月か6月のことであろう。しかし主たる楽員たちにはあまり思い当たるところのない名だったようである。

ウィリー・フライに訊いてみた。ポーランド出身のユダヤ人ヴァイオリニストで、東京音楽学校(現東京藝術大学音楽学部)での教職をあてにして日本に逃れてきたばかりだ。6月24日の第168回定期公演(当時は予約演奏会)で齋藤の指揮によりブラームスの《ヴァイオリン協奏曲》を弾いている。フライはローゼンシュトックを名指揮者だという。しかしローゼンシュトックを個人的によく知っていて、仲も良いらしい。鼯鼠があるかもしれない。そこで来日中のエマヌエル・フォイアマンにも照会してみた。当時、ベルリンからウィーンに移っていて、1938(昭和13)年にはパレスチナに逃れることになる、このユダヤ

人の大チェリストは、やはりローゼンシュトックをべた褒めた。凄腕だという。フライとフォイアマンがふたりとも推すのであれば、とりあえず間違いはあるまい。なにしろもう時間がない。秋のシーズンには新しい指揮者をどうしても間に合わせたかった。そうできなければ、「近衛騒動」のあとの冷戦期を経て、ようやくよりをしっかり戻したばかりの日本放送協会が推してくる音楽家に、なんらかの権限や権益を与えることにならざるを得なくなるであろう。

どういうことか。繰り返せば、近衛の影に脅えていたからである。しかも彼らの懸念はえらく具体的だった。新交響楽団の最大のスポンサーはむろん日本放送協会である。放送局の仕事なくして新交響楽団は食べていけない。親同然だ。その親が、近衛の私有財産である往原の練習場を、近衛と上手に話を進めて借上げ続けてくれているから、近衛と決別した後も、新交響楽団は困らずに演奏活動を続けられている。だが、以前にも触れたように、近衛は練習場問題などでオーケストラと妥協することについて、放送局に条件を付けたいらしい。

近衛がベルリンから東京に連れ出してきたユダヤ人の大ピアニスト、レオニード・クロイツァーの面倒を、放送局が積極的にみることに。彼の日本での音楽生活を助けること。近衛は日本放送協会にそう約束させているらしい。具体的にどうするのかまで契約書を交わしているわけではなかったようで、そこに歴史の謎が残るのだけれど、とにかくクロイツァーはピアニストだが指揮もできる。事実、彼は1934(昭和9)年の第140回定期公演でブラームスの《交響曲第2番》やリストの《交響詩「レ・プレリュード」》を披露して成功を取め、日本で指揮者として生活できると自信を持っている。そんなクロイツァーの面倒を日本放送協会が見るとは、普通に考え

て、新交響楽団とコンチェルトで共演を重ねるとか、放送局のスタジオからたびたびピアノ独奏を電波に乗せるとかにとどまるまい。近衛の後に定まった指揮者を見つけられない新交響楽団を、それならばクロイツァーが率いようという流れを作るのが、近衛にとっての落としどころであり、クロイツァーもそれを強く期待し、放送局には当然、近衛との約束を守ろうとしていた人たちがいたようである。

楽団員たちの側からすれば、それはせっかく追い出した近衛の紐付きの指揮者に居座られてしまうという、最も警戒されるべき筋書きであったかと思われる。そして放送局の側にも成り行きによっては近衛との約束をうやむやにしてもやむなしと考える人たちもいたとみななければならない。そうでないと、まるで見知らぬローゼンシュトックを、お試し期間も設定せず、なにがなんでも慌てて招聘したオーケストラの行動（しかもそれは日本放送協会の同意を得てこそであった）と、それに対する奇々怪々というくらいのクロイツァーの反応を、説明できないのではないかと思われる。

クロイツァーの策謀

はて、クロイツァーの奇々怪々な反応とは？ ナチスがオーストリアを併合するのは1938（昭和13）年3月である。ローゼンシュトックはベルリンで暮らしていたが、新交響楽団から正式に指揮者として契約を求められると、日本へ円滑に移動するために、まだナチス化していなかったオーストリアが日本との間に持つ外交ルートを頼った。ローゼンシュトックはもともとオーストリアの国民だったし、本人はベルリン暮らしでも、家族はウィーンに住まわせていた。ベルリンで

は日本の外交官とも接触したという。日本を代表するオーケストラに赴任するのだ。ナチスの横槍が入らないように。準備は、期間が短くとも、日墺両国によってかなり周到に行われたようだ。

ところが邪魔が入った。ナチスではない。東京のクロイツァーである。ローゼンシュトックの回想に従うと、いよいよ日本への出発が目前に迫ったとき、ベルリンでの旧知のロシア人音楽記者が知らせたいことがあると言ってきた。東京のクロイツァーから電報をもらったという。クロイツァーはついこの前までベルリン楽壇の大立者であったのであり、ローゼンシュトックもたびたび共演していた。彼の表現を借りれば、アルトゥール・シュナーベルの陰に隠れるころもあったにせよ、まぎれもなく敬愛すべき大演奏家であった。

そのクロイツァーがわざわざ何を伝えたいのか。ローゼンシュトックは記者に会い、内容を告げられた。東京の仕事をローゼンシュトックが引き受けたと聞いたが、わざわざ来るほどのオーケストラではないから来日を見合わせるように記者から忠告してくれという依頼状だというのである。ピアニストは指揮者に直接に電報を打ってもよかった。でもそうしなかった。証拠が残るのを恐れたのだろう。人を介した。

ローゼンシュトックはクロイツァーの真意をそのときすぐに理解したという。もちろん音楽家の良心に従った好意ある助言ではない。なんと指揮者は、ベルリンにいながらすで、クロイツァーが新交響楽団のポストを狙っていることを知っていたという。楽団側からなんらかの方法で伝えていたのだろう。東京のクロイツァーも放送局内の味方か近衛の筋から、楽団のローゼンシュトック招聘の情報をいち早く掴んだに違いない。正式な招請状が発せられた段階で、クロイツァーの敗色は濃くなったといえるが、

ローゼンシュトックが断ればまた展開は変わってくる。秋からの東京の楽壇がクロイツァーの天下になる目はまだあった。かくて火花はまずベルリンで散った。

が、ローゼンシュトックはめげない。反ユダヤの都と化したベルリンから逃げ出す機会を逃してなるものか。クロイツァーの“忠告”を物ともせず、8月にベルリンを発ち、ウィーンで家族と別れを惜しみ、単身シベリア鉄道に乗って、ハルビン、釜山^{プサン}を経由し、海路で下関へ。旅は順調に見えた。しかしローゼンシュトックの回想によると、下関でまたも奇々怪々！ 鉄路で東京へ向かうところまで電報を受け取った。東京のクロイツァーからだ。名古屋から列車に同乗して旧交を温めたいという。

本当だった。名古屋から乗ってきた。さすがにベルリンに帰ったらどうかとは言わない。9月からの新交響楽団の定期公演はしばらく毎回ローゼンシュトックが指揮し、それに先んじて就任披露の特別演奏会も催されると、もう発表されていた。大ピアニストにもはや覆^{くつがえ}しようがない。でもクロイツァーはその他に自分が指揮をする連続演奏会の予定があるという。オーケストラにも話が通っていると主張する。つまり新交響楽団を当分、ふたりで振っていこうということだ。そうなのか。双頭体制になるのか。話が^{いぶか}おかしい。ローゼンシュトックは訝^{いぶか}しんだ。クロイ

ツァーは横浜駅で降りてしまう。東京駅で出迎える新交響楽団の人々に会いたくなかったのだろう。8月17日のことである。

ローゼンシュトックは早速、オーケストラに尋ねてみた。自分とは別にクロイツァーも新交響楽団と関係してゆくのか？ 回答は全否定だった。クロイツァーにはなんのポストもないし、今後ゲストに呼ぶ予定もない。

クロイツァーの面目は丸潰^{つぶ}れた。少なくとも日本放送協会とは話があったに違いない。近衛も言^{げんご}賞^{ちやう}を与えていたろう。9月にオーケストラが新しい指揮者を連れてこれなければ、自ずとクロイツァーが音楽監督的立場になるのだと。それだからクロイツァーはローゼンシュトックの人事を潰すように努めた。だが、しくじった。そこで契約書でもあればよかったのだが、そういう決定的な証拠がどうやらない。でも事の成り行きはある程度、証明できるかもしれない。正義は我にあり！

9月、クロイツァーは新交響楽団を告訴した。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』『大衆必易』ほか著書多数。

2024年11月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

この先、世界の楽壇を担っていくであろう3人が、相次ぎ指揮台に上る。いずれも40代後半、名門オケにポストを持ったり、共演を重ねたりして、着実にキャリアを積んでいる。

しなやかで色彩感豊かな山田和樹^{めいせき}、明晰で筋肉質なディマ・スロボデニューク、情熱的かつ躍動感みなぎるアンドレス・オロスコ・エストラーダ。それぞれの個性が、得意プログラムとともに味わえる1か月である。

山田和樹が贈る 陶酔と幽玄のフランス・プログラム

[Aプログラム]の指揮は、バーミンガム市交響楽団で音楽監督に昇任した注目の山田和樹。3年ぶりとなる今回は、久々にフランス音楽を選択した。

《「バックスとアリアーヌ」組曲第1番》では、ルーセルの持ち味である鮮烈なリズムと豪華な響きが、物語の主役である酒の神バックスさながらに、聴き手を陶酔の世界へと導いてくれるだろう。

ルーセルに影響を与えたラヴェルは《優雅で感傷的なワルツ》で、和音のさまざまな組み合わせを追求している。彼がワルツを好んだのは、シンプルな構造の舞曲が実験の器に適

していた、という理由もありそうだ。薄れゆく記憶のように明滅する終曲は、ドビュッシーの幽玄の世界へと繋がっていく。

《イベリア》では、3曲が明暗明の対比を形作るが、次に移り変わる際の音色のグラデーションが特に美しい。多くの場合、物事の境目はあいまいだということを、聴くたびに思わせてくれるのだ。

フランス音楽に異なる彩りを添えるのは、バルトーク《ピアノ協奏曲第3番》。ピエモンテジはスイス出身、世代の近い山田和樹とは親しい間柄である。

スロボデニュークの切れ味鋭い解釈で ロシア音楽の多彩な様相を聴く

[Bプログラム]では、定期初登場のスロボデニュークが、生まれ育ったロシアの音楽を取り上げる。チャイコフスキー《ヴァイオリン協奏曲》の哀愁に満ちた旋律や舞曲風のリズムはいかにもロシア的だが、曲は西洋の伝統的な形式で書かれている。作曲されたのはスイスの避暑地で、初演は音楽の都ウィーン。内容的にも創作過程も、ヨーロッパと密接に結びついている。ソロは以前にもツアーでこの曲を弾き、好評を博したボリソグレブスキー。

プロコフィエフは《石の花》に民族音楽の要素をふんだんに取り入れ、初期の作風からは想像もつかない、わかりやすい音楽を書いた。その点で3曲中、最も“ロシア”を感じさせる作品かもしれない。

ストラヴィンスキーの新古典主義時代を締めくくる《3楽章の交響曲》が《石の花》の数年前に書かれたのは、意外な感じもする。スターリン政権下のソ連に生きたプロコフィエフと、アメリカの市民権を得たストラヴィンスキーの違いというべきか。スロボデニュークが切れ味鋭い演奏を聴かせてくれるはずだ。

オロスコ・エストラダ
N響との初顔合わせに自信のプログラムで登場

今シーズンの定期公演には、初めての指揮者が4人登場するが、オロスコ・エストラダが[Cプログラム]でその先陣を切る。人気指揮者との初顔合わせは大変楽しみである。

ワーグナー《「タンホイザー」序曲》は、かつ

て首席指揮者を務めたhr交響楽団と録音し、シヨスタコーヴィチ《交響曲第5番》は、7年前のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団定期デビューで指揮している。彼が自信のある2曲を望んだのは、N響との初共演にかけ、並々ならぬ意欲の表れだろう。

ヴァインベルクの《トランペット協奏曲》は、この分野における20世紀屈指の傑作で、アイロニックな色調には、シヨスタコーヴィチの影響が感じられる。終楽章では、おなじみの名曲の断片が次々に浮かんでは消えていく。その中のひとつに《カルメン》の〈こどもたちの合唱〉があるが、シヨスタコーヴィチ《第5番》にも、同じく《カルメン》から取られた〈ハバネラ〉が使われているのは、有名な話だ。ソロを務めるラインホルト・フリードリヒは、ルツェルン祝祭管弦楽団の首席奏者。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 11/9 土 6:00pm
11/10 日 2:00pm
NHKホール

ルーセル／バレエ音楽「バックスとアリアーヌ」作品43—組曲 第1番

バルトーク／ピアノ協奏曲 第3番

ラヴェル／優雅で感傷的なワルツ

ドビュッシー／管弦楽のための「映像」—「イベリア」

指揮：山田和樹

ピアノ：フランチェスコ・ビエモンテジ



B 11/21 木 7:00pm
11/22 金 7:00pm
サントリーホール

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」—「銅山の女王」「結婚組曲」

ストラヴィンスキー／3楽章の交響曲

指揮：ディマ・スロボデニューク

ヴァイオリン：ニキータ・ボリソグレブスキー



C 11/15 金 7:00pm
11/16 土 2:00pm
NHKホール

ワーグナー／歌劇「タンホイザー」序曲

ヴァインベルク／トランペット協奏曲 変ロ長調 作品94

シヨスタコーヴィチ／交響曲 第5番 二短調 作品47

指揮：アンドレス・オロスコ・エストラダ

トランペット：ラインホルト・フリードリヒ



チケットのご案内(定期公演 2024年9月～2025年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～44%お得です！（一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります）

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2024年7月7日[日](定期会員先行) / 2024年7月15日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2024年10月10日[木](定期会員先行) / 2024年10月15日[火](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2025年2月13日[木](定期会員先行) / 2025年2月19日[水](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム(9回)	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)
Cプログラム(8回)	一般	¥68,000(¥8,500)	¥57,800(¥7,225)	¥44,200(¥5,525)	¥36,720(¥4,590)	¥29,240(¥3,655)
	ユースチケット	¥34,000(¥4,250)	¥27,200(¥3,400)	¥21,080(¥2,635)	¥17,336(¥2,167)	¥10,200(¥1,275)

シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム(3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム [Autumn/Winter](3回)	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)
Cプログラム[Spring] (2回)	一般	¥17,900(¥8,950)	¥15,216(¥7,608)	¥11,636(¥5,818)	¥9,666(¥4,833)	¥7,698(¥3,849)
	ユースチケット	¥8,950(¥4,475)	¥7,160(¥3,580)	¥5,550(¥2,775)	¥4,566(¥2,283)	¥2,686(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価
※本シーズンよりD席のみ設定されていた「ユースチケット会員券」を、全席種(S～D)に拡大しました。
※本シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2024年7月31日[水](定期会員先行) / 2024年8月4日[日](一般)
	12・1・2月	2024年10月17日[木](定期会員先行) / 2024年10月23日[水](一般)
	4・5・6月	2025年2月26日[水](定期会員先行) / 2025年3月2日[日](一般)

※本シーズンより1回券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ユースチケット

N響では、若い世代の方にオーケストラを身近に感じていただくことを願って、お得な「ユースチケット」を設けています。詳しくはN響ホームページをご覧ください。※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

ユース世代の方へのお得なチケットが、さらに使いやすく！

対象年齢を拡大

定期会員券の対象席種を拡大

2024年7月の主催公演から対象年齢を「29歳以下」に拡大しました
「S席～D席の全席種」に拡大しました

お申し込み

WEBチケットN響
<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm / 定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業 ●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」から登録ください。

2024-25定期公演プログラム

2024 10	A	第2020回	オネゲルとブラームスの暗き情熱の渦に身をゆだねる オネゲル／交響曲 第3番「典礼風」 ブラームス／交響曲 第4番 小短調 作品98	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		10/19(土) 6:00pm 10/20(日) 2:00pm			
	NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット			
2024 11	B	第2019回	ブロムシュテットが贈る北欧音楽の花束 シベリウス／交響詩「4つの伝説」作品22—「トゥオネラの白鳥」 ニルゼン／クラリネット協奏曲 作品57 ベルワルド／交響曲 第4番 変ホ長調「ナイヴ」	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		10/10(木) 7:00pm 10/11(金) 7:00pm			
	サントリーホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット クラリネット:伊藤 圭(N響首席クラリネット奏者)			
2024 11	C	第2021回	ブロムシュテットに導かれて挑む シューベルト最高峰の交響曲2作 シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」 シューベルト／交響曲 第8番 八長調 D. 944「ザ・グレート」	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		10/25(金) 7:00pm 10/26(土) 2:00pm			
	NHKホール	指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット			
2024 11	A	第2022回	山田和樹 N響定期に凱旋! お家芸のレパートリーを披露 ルーセル／バレエ音楽「パッサカとアリアーヌ」作品43—組曲 第1番 バルトーク／ピアノ協奏曲 第3番 ラヴェル／優雅で感傷的なワルツ ドビュッシー／管弦楽のための「映像」—「イペリア」	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		11/9(土) 6:00pm 11/10(日) 2:00pm			
	NHKホール	指揮:山田和樹 ピアノ:フランチェスコ・ビエモンテージ			
2024 11	B	第2024回	透徹した音楽性が際立つソロポデニューク 母国ロシアの作品で定期初登場 チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35 プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」—「銅山の女王」「結婚組曲」 ストラヴィンスキー／3楽章の交響曲	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		11/21(木) 7:00pm 11/22(金) 7:00pm			
	サントリーホール	指揮:ディマ・ソロポデニューク ヴァイオリン:ニキータ・ポリソグレブスキー			
2024 11	C	第2023回	世界を席巻するオロスコ・エストラーダ 満を持してN響初登場 ワグナー／歌劇「タンホイザー」序曲 ヴァインベルク／トランペット協奏曲 変口長調 作品94 ショスタコーヴィチ／交響曲 第5番 二短調 作品47	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000
		11/15(金) 7:00pm 11/16(土) 2:00pm			
	NHKホール	指揮:アンドレス・オロスコ・エストラーダ トランペット:ラインホルト・フリードリヒ			
2024 12	A	第2025回	ドイツ・ロマン主義の馥郁たる香気に包まれる シェーンベルク生誕150年 ワグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「前奏曲と愛の死」 R. シュトラウス／「はらの花輪」作品36-1*、「なつかしいおもかげ」作品48-1*、 *12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。 「森の喜び」作品49-1*、「心安らかに」作品39-4*、「あすの朝」作品27-4* シェーンベルク／交響詩「ベレアスとメリザンド」作品5	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400
		11/30(土) 6:00pm 12/1(日) 2:00pm			
	NHKホール	指揮:ファビオ・ルイージ ソプラノ:クリスティアーネ・カルク*			
2024 12	B	第2026回	ルイージが屈指の名曲で掘り起こす スラヴ音楽の魅力 スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30 ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750
		12/5(木) 7:00pm 12/6(金) 7:00pm			
	サントリーホール	指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:ネルソン・ゲルナー			
2024 12	C	第2027回	《一千人の交響曲》に続く ルイージ&N響の「ファウスト」シリーズ リスト／交響詩「タッソー」 リスト／ファウスト交響曲*	一般 S ¥13,000 A ¥11,000 B ¥8,500 C ¥7,000 D ¥5,600 E ¥3,500	ユースチケット S ¥6,500 A ¥5,200 B ¥4,000 C ¥3,500 D ¥2,000 E ¥1,700
		12/13(金) 7:00pm 12/14(土) 2:00pm			
	NHKホール	指揮:ファビオ・ルイージ テノール:ジェームズ・マッコークル* 男声合唱:東京オペラシンガーズ*			

	A NHKホール	B サントリーホール	C NHKホール														
	開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm														
2025 01	A 第2028回 1/18(土) 6:00pm 1/19(日) 2:00pm NHKホール ソヒエフが「レニングラード交響曲」に万感の思いを込める ショスタコフ・ヴィチ / 交響曲 第7番 八長調 作品60「レニングラード」 指揮:トゥガン・ソヒエフ	B 第2030回 1/30(木) 7:00pm 1/31(金) 7:00pm サントリーホール 音の魔術師のタクトが紡ぎだす 東欧の情緒に身をゆだねる ムソルグスキー(リヤードフ編) / 歌劇「ソロチンツィの市」—「序曲」「ゴバック」 バルトーク / ヴァイオリン協奏曲 第2番 ドヴォルザーク / 交響曲 第8番 ト長調 作品88 指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴァイオリン:郷古 廉(N響第1コンサートマスター)	C 第2029回 1/24(金) 7:00pm 1/25(土) 2:00pm NHKホール 世紀を超えて受け継がれる“古典”の精神 ストラヴィンスキー / 組曲「プルチネッタ」 プラムス / 交響曲 第1番 八短調 作品68 指揮:トゥガン・ソヒエフ														
	A 第2031回 2/8(土) 6:00pm 2/9(日) 2:00pm NHKホール チェコが生んだ新時代の巨匠ボヘルカがN響デビュー ツェムリンスキー / シンフォニエッタ 作品23 R. シュトラウス / ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11 ドヴォルザーク / 交響詩「のぼと」作品110 ヤナーチェク / シンフォニエッタ 指揮:ベトル・ボヘルカ ホルン:ラデク・パボラーク	B 第2032回 2/13(木) 7:00pm 2/14(金) 7:00pm サントリーホール 世界の音楽界が熱視線を注ぐ 若き巨匠によるドイツ・プログラム モーツァルト / アリア「私は行く、だがどこへ」K. 583*、 アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578*、 交響曲 第25番 ト短調 K. 183、レチタティーヴォとアリア「私のうるわし い恋人よ、さようなら—とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528* シューマン / 交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」 指揮:ベトル・ボヘルカ メゾ・ソプラノ:エマ・ニコロフスカ*	C 第2033回 2/21(金) 7:00pm 2/22(土) 2:00pm NHKホール 下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界 スッペ / 喜歌劇「軽騎兵」序曲 サン・サーンス / ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61 スッペ / 喜歌劇「詩人と農夫」序曲 オフエンバック(ロザンタル編) / バレエ音楽「ハリの喜び」(抜粋) 指揮:下野竜也 ヴァイオリン:三浦文彰														
	A 第2034回 4/12(土) 6:00pm 4/13(日) 2:00pm NHKホール ベルリオーズとプロコフィエフ 通底するテーマは「さすらい人」 ベルリオーズ / 交響曲「イタリアのハロルド」* プロコフィエフ / 交響曲 第4番 八長調 作品112(改訂版/1947年) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ヴィオラ:アントワヌ・タメスティ*	B 第2035回 4/17(木) 7:00pm 4/18(金) 7:00pm サントリーホール 《春の祭典》に続くパーヴォ&N響が贈る ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾 ストラヴィンスキー / バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲/1947年版) プリテン / ピアノ協奏曲 作品13 プロコフィエフ / 交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:ベンジャミン・クローヴナー	C 4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます														
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>一般</th> <th>ユースチケット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S ¥11,000</td><td>S ¥5,500</td></tr> <tr><td>A ¥9,500</td><td>A ¥4,500</td></tr> <tr><td>B ¥7,600</td><td>B ¥3,500</td></tr> <tr><td>C ¥6,000</td><td>C ¥2,800</td></tr> <tr><td>D ¥5,000</td><td>D ¥1,800</td></tr> <tr><td>E ¥3,000</td><td>E ¥1,400</td></tr> </tbody> </table>	一般	ユースチケット	S ¥11,000	S ¥5,500	A ¥9,500	A ¥4,500	B ¥7,600	B ¥3,500	C ¥6,000	C ¥2,800	D ¥5,000	D ¥1,800	E ¥3,000	E ¥1,400
一般	ユースチケット																
S ¥11,000	S ¥5,500																
A ¥9,500	A ¥4,500																
B ¥7,600	B ¥3,500																
C ¥6,000	C ¥2,800																
D ¥5,000	D ¥1,800																
E ¥3,000	E ¥1,400																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>一般</th> <th>ユースチケット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S ¥12,000</td><td>S ¥6,000</td></tr> <tr><td>A ¥10,000</td><td>A ¥5,000</td></tr> <tr><td>B ¥8,000</td><td>B ¥4,000</td></tr> <tr><td>C ¥6,500</td><td>C ¥3,250</td></tr> <tr><td>D ¥5,500</td><td>D ¥2,750</td></tr> </tbody> </table>	一般	ユースチケット	S ¥12,000	S ¥6,000	A ¥10,000	A ¥5,000	B ¥8,000	B ¥4,000	C ¥6,500	C ¥3,250	D ¥5,500	D ¥2,750		
一般	ユースチケット																
S ¥12,000	S ¥6,000																
A ¥10,000	A ¥5,000																
B ¥8,000	B ¥4,000																
C ¥6,500	C ¥3,250																
D ¥5,500	D ¥2,750																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>一般</th> <th>ユースチケット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S ¥11,000</td><td>S ¥5,500</td></tr> <tr><td>A ¥9,500</td><td>A ¥4,500</td></tr> <tr><td>B ¥7,600</td><td>B ¥3,500</td></tr> <tr><td>C ¥6,000</td><td>C ¥2,800</td></tr> <tr><td>D ¥5,000</td><td>D ¥1,800</td></tr> <tr><td>E ¥3,000</td><td>E ¥1,400</td></tr> </tbody> </table>	一般	ユースチケット	S ¥11,000	S ¥5,500	A ¥9,500	A ¥4,500	B ¥7,600	B ¥3,500	C ¥6,000	C ¥2,800	D ¥5,000	D ¥1,800	E ¥3,000	E ¥1,400
一般	ユースチケット																
S ¥11,000	S ¥5,500																
A ¥9,500	A ¥4,500																
B ¥7,600	B ¥3,500																
C ¥6,000	C ¥2,800																
D ¥5,000	D ¥1,800																
E ¥3,000	E ¥1,400																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>一般</th> <th>ユースチケット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S ¥10,000</td><td>S ¥5,000</td></tr> <tr><td>A ¥8,500</td><td>A ¥4,000</td></tr> <tr><td>B ¥6,500</td><td>B ¥3,100</td></tr> <tr><td>C ¥5,400</td><td>C ¥2,550</td></tr> <tr><td>D ¥4,300</td><td>D ¥1,500</td></tr> <tr><td>E ¥2,200</td><td>E ¥1,000</td></tr> </tbody> </table>	一般	ユースチケット	S ¥10,000	S ¥5,000	A ¥8,500	A ¥4,000	B ¥6,500	B ¥3,100	C ¥5,400	C ¥2,550	D ¥4,300	D ¥1,500	E ¥2,200	E ¥1,000
一般	ユースチケット																
S ¥10,000	S ¥5,000																
A ¥8,500	A ¥4,000																
B ¥6,500	B ¥3,100																
C ¥5,400	C ¥2,550																
D ¥4,300	D ¥1,500																
E ¥2,200	E ¥1,000																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>一般</th> <th>ユースチケット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S ¥11,000</td><td>S ¥5,500</td></tr> <tr><td>A ¥9,500</td><td>A ¥4,500</td></tr> <tr><td>B ¥7,600</td><td>B ¥3,500</td></tr> <tr><td>C ¥6,000</td><td>C ¥2,800</td></tr> <tr><td>D ¥5,000</td><td>D ¥1,800</td></tr> <tr><td>E ¥3,000</td><td>E ¥1,400</td></tr> </tbody> </table>	一般	ユースチケット	S ¥11,000	S ¥5,500	A ¥9,500	A ¥4,500	B ¥7,600	B ¥3,500	C ¥6,000	C ¥2,800	D ¥5,000	D ¥1,800	E ¥3,000	E ¥1,400
一般	ユースチケット																
S ¥11,000	S ¥5,500																
A ¥9,500	A ¥4,500																
B ¥7,600	B ¥3,500																
C ¥6,000	C ¥2,800																
D ¥5,000	D ¥1,800																
E ¥3,000	E ¥1,400																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>一般</th> <th>ユースチケット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>S ¥12,000</td><td>S ¥6,000</td></tr> <tr><td>A ¥10,000</td><td>A ¥5,000</td></tr> <tr><td>B ¥8,000</td><td>B ¥4,000</td></tr> <tr><td>C ¥6,500</td><td>C ¥3,250</td></tr> <tr><td>D ¥5,500</td><td>D ¥2,750</td></tr> </tbody> </table>	一般	ユースチケット	S ¥12,000	S ¥6,000	A ¥10,000	A ¥5,000	B ¥8,000	B ¥4,000	C ¥6,500	C ¥3,250	D ¥5,500	D ¥2,750		
一般	ユースチケット																
S ¥12,000	S ¥6,000																
A ¥10,000	A ¥5,000																
B ¥8,000	B ¥4,000																
C ¥6,500	C ¥3,250																
D ¥5,500	D ¥2,750																

2025
05

A 第2036回
4/26(土) 6:00pm
4/27(日) 2:00pm
※5月定期公演Aプログラムは
4月に開催いたします。
NHKホール

ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露
マーラー・フェスティバル2025 演奏曲
マーラー／交響曲 第3番 二短調
指揮:ファビオ・ルイージ メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ
女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団

一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

B 第2037回
5/1(木) 7:00pm
5/2(金) 7:00pm
サントリーホール

札幌あう”生と死”を克服し その彼方の光へ
マーラー・フェスティバル2025 演奏曲(マーラーのみ)
ベルク／ヴァイオリン協奏曲
マーラー／交響曲 第4番 長調*
指揮:ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C 第2038回
5/30(金) 7:00pm
5/31(土) 2:00pm
NHKホール

オペラ指揮者シュレキーテのR. シュトラウス!
N響定期初登場、藤田真央にも注目!
シュベルト／「ロザムンデ」序曲
ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25*
R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲
R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲
指揮:ギエドレ・シュレキーテ ピアノ:藤田真央*

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2025
06

A 第2039回
6/7(土) 6:00pm
6/8(日) 2:00pm
NHKホール

巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲
リムスキー・コルサコフ／歌劇「5月の夜」序曲
ラフマニノフ／バガニエニの主題による狂詩曲 作品43*
チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」
指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ
ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

B 第2040回
6/12(木) 7:00pm
6/13(金) 7:00pm
サントリーホール

チェリビダッケの直弟子 メナのブルックナー《第6番》
イベール／フルート協奏曲
ブルックナー／交響曲 第6番 長調
指揮:ファンホ・メナ
フルート:カール・ハインツ・シュツツ

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C 第2041回
6/20(金) 7:00pm
6/21(土) 2:00pm
NHKホール

2000年生まれの超新星 ベルトコスキのマーラー《巨人》
コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35
マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」
指揮:タルモ・ベルトコスキ
ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

速報 2025-26定期公演プログラム(2025年9月~2026年6月)

2025 09	A	第2042回 9/13(土) 6:00pm 9/14(日) 2:00pm NHKホール	ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 ブラント・シュミット/交響曲 第4番 ハ長調 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:イェフィム・ブロンフマン
	B	第2043回 9/18(木) 7:00pm 9/19(金) 7:00pm サントリーホール	武満 徹/3つの映画音楽 ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61 メンデルスゾーン/交響曲 第4番 イ長調 作品90「イタリア」 指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:マリア・ドゥエニャス
	C	第2044回 9/26(金) 7:00pm 9/27(土) 2:00pm NHKホール	マーラー/こどもの不思議な角笛―「ラインの伝説」*「トランペットが美しく鳴り響くところ」* 「浮世の生活」*「天上の生活」*「原光」* シベリウス/交響詩「4つの伝説」作品22 指揮:ライアン・バンクロフト バリトントマス・ハンブソン*
2025 10	A	第2046回 10/18(土) 6:00pm 10/19(日) 2:00pm NHKホール	ストラヴィンスキー/詩篇交響曲 メンデルスゾーン/交響曲 第2番 変ロ長調 作品52「讃歌」* 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー* メゾ・ソプラノ:マリー・ヘンリエッテ・ラインホルト* テノール:ティルマン・リヒディ* 合唱:スウェーデン放送合唱団
	B	第2045回 10/9(木) 7:00pm 10/10(金) 7:00pm サントリーホール	グリーグ/組曲「ホルベアの時代から」作品40 ニルゼン/フルート協奏曲 シベリウス/交響曲 第5番 変ホ長調 作品82 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット フルート:セバスティアン・ジャコー
	C	第2047回 10/24(金) 7:00pm 10/25(土) 2:00pm NHKホール	ブラームス/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 ブラームス/交響曲 第3番 ハ長調 作品90 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット ピアノ:レイフ・オヴェ・アンスネス
2025 11	A	第2048回 11/8(土) 6:00pm 11/9(日) 2:00pm NHKホール	メシアン/神の現存の3つの小典礼* ホルスト/組曲「惑星」作品32 指揮:シャルル・デュトワ ピアノ:小菅 優* オンド・マルトノ:大矢素子* 女声合唱:東京オペラシンガーズ
	B	第2050回 11/20(木) 7:00pm 11/21(金) 7:00pm サントリーホール	シューマン/「マンフレッド」序曲 モーツァルト/ピアノ協奏曲 第25番 ハ長調 K. 503 R. シュトラウス/交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:ラファエル・バヤール ピアノ:エマニュエル・アックス
	C	第2049回 11/14(金) 7:00pm 11/15(土) 2:00pm NHKホール	ラヴェル生誕150年 ラヴェル/亡き女王のためのパヴァーヌ ラヴェル/組曲「クーランの墓」 ラヴェル/バレエ音楽「ダフニスとクロエ」* 指揮:シャルル・デュトワ 合唱:二期会合唱団*

		A NHKホール	B サントリーホール	C NHKホール
		開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm	開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm	開場6:00pm 開演7:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm
2025 12	A	第2051回 11/29 土 6:00pm 11/30 日 2:00pm <small>※12月定期公演Aプログラムは11月に開催いたします。</small> NHKホール	ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77 ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」 指揮：ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン：レオニダス・カヴァコス	
	B	第2052回 12/4 木 7:00pm 12/5 金 7:00pm サントリーホール	藤倉 大／NHK交響楽団 委嘱作品 [タイトル未定／世界初演] フランク／交響的変奏曲* サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」 指揮：ファビオ・ルイーゼ ピアノ：トム・ボロー*	
	C	第2053回 12/12 金 7:00pm 12/13 土 2:00pm NHKホール	ショパン／ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11 または第2番 ヘ短調 作品21 ニルゼン／交響曲 第4番 作品29「不滅」 指揮：ファビオ・ルイーゼ ピアノ：第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者	
2026 01	A	第2054回 1/17 土 6:00pm 1/18 日 2:00pm NHKホール	マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」 指揮：トゥガン・ソビエフ	
	B	第2056回 1/29 木 7:00pm 1/30 金 7:00pm サントリーホール	ムソルグスキー(ショスタコーヴィチ編)／歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川の夜明け」 ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 ヘ長調 作品102 プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100 指揮：トゥガン・ソビエフ ピアノ：松田華音	
	C	第2055回 1/23 金 7:00pm 1/24 土 2:00pm NHKホール	ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲 デュティユー／チェロ協奏曲「遙かなる遠い国へ」 リムスキー・コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57 ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版) 指揮：トゥガン・ソビエフ チェロ：上野透明	
2026 02	A	第2057回 2/7 土 6:00pm 2/8 日 2:00pm NHKホール	シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」 ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」—「ジークフリートのラインの旅」 「ジークフリートの葬送行進曲」「ブリュンヒルデの自己犠牲」* 指揮：フィリップ・ジョルダン ソプラノ：タマラ・ウィルソン*	
	B	第2059回 2/19 木 7:00pm 2/20 金 7:00pm サントリーホール	ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53 ブラームス／セレナーデ 第1番 二長調 作品11 指揮：ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン：ヨゼフ・シュバチェク	
	C	第2058回 2/13 金 7:00pm 2/14 土 2:00pm NHKホール	コダーイ／ハンガリー民謡「くじゃく」による変奏曲 ファンメル／トランペット協奏曲 ホ長調 ムソルグスキー(近衛秀麿編)／組曲「展覧会の絵」 指揮：ゲルゲイ・マダラシュ トランペット：菊本和昭(N響首席トランペット奏者)	

速報 2025-26定期公演プログラム(2025年9月~2026年6月)

2026 04	A	第2060回 4/11(土) 6:00pm 4/12(日) 2:00pm NHKホール	ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 八長調 Hob. VIIb-1 ブルックナー／交響曲 第9番 二短調 指揮:ファビオ・ルイーゼ チェロ:ヤン・フォークラー
		B	第2061回 4/16(木) 7:00pm 4/17(金) 7:00pm サントリーホール
	C	第2062回 4/24(金) 7:00pm 4/25(土) 2:00pm NHKホール	外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 八長調 作品26 伊福部 昭／交響譚詩 ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」―「4つの海の間奏曲」作品33a 指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平
2026 05	A	第2064回 5/23(土) 6:00pm 5/24(日) 2:00pm NHKホール	ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 卜短調 作品25 指揮:ミハエル・ザンデルリンク ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:ターニャ・テツラフ
		B	第2063回 5/14(木) 7:00pm 5/15(金) 7:00pm サントリーホール
	C	第2065回 5/29(金) 7:00pm 5/30(土) 2:00pm NHKホール	ヴァクスス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品 [タイトル未定/日本初演] ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 八短調 作品43 指揮:アンドリス・ボーガ
2026 06	A	第2067回 6/13(土) 6:00pm 6/14(日) 2:00pm NHKホール	ワーグナー／楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番 卜長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮:ヤーブ・ヴァン・スヴェーデン ピアノ:コンラッド・タオ
		B	第2066回 6/4(木) 7:00pm 6/5(金) 7:00pm サントリーホール
	C	第2068回 6/19(金) 7:00pm 6/20(土) 2:00pm NHKホール	シベリウス／アンダンテ・フェスティーヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44 指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※料金、発売日等チケットの詳細は2025年3月末に発表予定です。

特別公演

12/18 **水** 7:00pm | 12/22 **日** 2:00pm |
12/19 **木** 7:00pm | 12/24 **火** 7:00pm | ベートーヴェン「第9」演奏会
12/21 **土** 2:00pm

NHK ホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ

ソプラノ:ヘンリエット・ボンデ・ハンセン メゾ・ソプラノ:藤村実穂子

テノール:ステュアート・スケルトン バス・バリトン:トマス・トマソン 合唱:新国立劇場合唱団

ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売 | 9月25日(水)10:00am

一般 | 9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

※12月24日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。

主催:NHK・NHK交響楽団 / NHK・NHK厚生文化事業団(24日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / 株式会社明電舎

お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502 / NHK厚生文化事業団 TEL (03)3476-5955(24日公演のみ)

12/23 **月** 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ オルガン:中田恵子* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ

バッハ/トッカータとフーガ へ長調 BWV540*

ベートーヴェン/交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

チケット発売日:N響定期会員先行発売 9月25日(水)10:00am

一般 | 9月29日(日)10:00am

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険 お問合せ:N響ガイド TEL (0570)02-9502

お申し込み

WEBチケットN響 | <https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am~5:00pm

定休日:土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am~開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

10/14(月)祝 4:00pm | オーケストラ・キャラバン NHK交響楽団 富士特別公演

富士市文化会館ロゼシアター 大ホール

指揮:ゲルゲイ・マダラシュ

ピアノ:高木竜馬

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 作品23

チャイコフスキー／交響曲 第4番 へ短調 作品36

主催:公益社団法人日本オーケストラ連盟 / NHK交響楽団

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(全国キャラバン))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

お問合せ:NHKエンタープライズ中部 TEL(052)952-7381

10/30(水) 7:00pm | NHK音楽祭2024

NHKホール

指揮:シャルル・デュトワ

ピアノ:ニコライ・ルガンスキー

ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」

主催:NHK / NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

11/4(月)祝 2:00pm | NHK交響楽団 キンボー・イシイ(指揮) 福間洗太郎(ピアノ)

埼玉会館 大ホール

指揮:キンボー・イシイ

ピアノ:福間洗太郎*

ウェーバー(ベルリオーズ編)／舞踏への勧誘 作品65

ショパン／ポーランドの民謡による大幻想曲 作品13*

リスト／死の舞踏*

ビゼー／「カルメン」組曲(キンボー・イシイ版)

主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問合せ:SAF チケットセンター TEL(0570)064-939

11/24回 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 大阪公演

NHK大阪ホール

指揮:ディマ・スロボデニューク

ヴァイオリン:ニキータ・ボリソグレブスキー

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

プロコフィエフ／バレエ音楽「石の花」—「銅山の女王」 「結婚組曲」

ストラヴィンスキー／3楽章の交響曲

主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団 お問合せ:NHK大阪ホール NHKイベントガイド TEL(06)6947-5000

12/8回 3:00pm | NHK交響楽団浦安特別公演

浦安市文化会館 大ホール

指揮:ファビオ・ルイーダ

ピアノ:ネルソン・ゲルナー

スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」

主催:(公財)うらやす財団 お問合せ:浦安市文化会館 TEL(047)353-1121

1/5回 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 甲府公演

YCC県民文化ホール(山梨県立県民文化ホール)

指揮:梅田俊明

ピアノ:亀井聖矢

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

主催:NHK甲府放送局／NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

1/12回 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 西宮公演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

指揮:サッシャ・ゲッツェル

ソプラノ:ヘラ・イエサン・バク*

ヨハン・シュトラウスⅡ世／喜歌劇「こうもり」—序曲、「侯爵様、あなたのようなお方は」*

ヨハン・シュトラウスⅡ世／ワルツ「南国のぼら」作品388

ヨハン・シュトラウスⅡ世／ベルジャ行進曲 作品289

ヨハン・シュトラウスⅡ世／喜歌劇「こうもり」—「田舎娘を演じる時は」*

ヨハン・シュトラウスⅡ世／狂乱のボルカ 作品260

コルンゴルト／シュトラウシアーナ

ヨーゼフ・シュトラウス／ワルツ「うわごと」作品212

ヨーゼフ・シュトラウス／ボルカ・マズルカ「とんぼ」作品204

ヨハン・シュトラウスⅡ世／喜歌劇「ジプシー男爵」序曲

ヨハン・シュトラウスⅡ世／ワルツ「ウィーンかたぎ」作品354

主催:NHK神戸放送局／NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5542-8600

1/13(月) 2:00pm | NHK交響楽団 大津公演

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール

出演者・曲目は1月12日と同じ

主催: NHK大津放送局 / NHK交響楽団 お問合せ: ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

2/2(日) 3:00pm | 第12回 NHK交響楽団いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

指揮: トウガン・ソヒエフ

ヴァイオリン: 郷古 廉

ムソルグスキー(リャードフ編) / 歌劇「ソロチンツイの市」—「序曲」「ゴバック」

バルトーク / ヴァイオリン協奏曲 第2番

ドヴォルザーク / 交響曲 第8番ト長調 作品88

主催: いわき芸術文化交流館アリオス お問合せ: アリオスチケットセンター TEL (0246) 22-5800

2/26(水) 7:00pm | NHK交響楽団 in Ichikawa

市川市文化会館

指揮: マルクス・ボシュナー

ピアノ: 小林愛実

ベートーヴェン / 序曲「コリオラン」作品62

モーツァルト / ピアノ協奏曲 第9番 変ホ長調 K. 271

ベートーヴェン / 交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催: (公財)市川市文化振興財団 お問合せ: (公財)市川市文化振興財団 TEL (047) 379-5111

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール・大ホール

11/3(日) 3:30pm

出演者・曲目は11月4日と同じ

1/11(土) 3:30pm

出演者・曲目は1月12日と同じ

主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

曲目解説執筆者

小林ひかり(こばやし ひかり)

北欧音楽研究者。大阪大学大学院文学研究科(音楽学)博士後期課程修了。訳書にアーリング・ダール著『グリーグ——その生涯と音楽』、論文に「近代日本におけるグリーグの音楽の受容」など。

神保夏子(じんぼう なつこ)

日本学術振興会特別研究員RPD。立教大学、国立音楽大学、桐朋学園大学非常勤講師。博士(音楽学)。専門分野は近代フランス音楽史、演奏文化史。著書に『マルグリット・ロン——近代フランス音楽を創ったピアニスト』、共著書に『コンクール文化論——競技としての芸術・表現活動を問う』、共訳書にカンタン・メイヤス『亡霊のジレンマ——思弁的唯物論の展開』など。

西原 稔(にしはら みのる)

桐朋学園大学大学院教授を経て、現在同大学名誉教授。おもな研究領域は18、19世紀ドイツ語圏の音楽。著書に『バロック音楽と国際政治』『新版 クラシックでわかる世界史——時代を生きた作曲家、歴史を変えた名曲』『ドイツイ・レクイエム』への道——ブラームスと神の声・人の声』『ブラームス』(作曲家・人と作品シリーズ)など。

(五十音順、敬称略)

Information

新入団

第1ヴァイオリン 飯塚歩夢(いづか あゆむ) 2024年10月1日付で入団。

訃報

当団元ホルン奏者(1965年7月入団)で団友の田村宏(たむら ひろし)氏が、2024年1月29日に逝去されました。享年91。ここに謹んで哀悼の意を表します。

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00~11:00pm

N響演奏会

FM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

ベストオブクラシック

FM 7:30~9:10pm

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00~9:30pm
月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHKプラス」(テレビ)や「らじる★らじる」(ラジオ)で1週間何度でもご視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
東日本電信電話株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 クラブCEO 小宮 暁

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一
・ 相川直樹	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ CSMK(株) 代表取締役 執行役員 社長 當麻隆昭
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ AXL.BIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (一財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有		・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人

- ・(学)NHK学園
理事長 | 等々力 健
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 神田真介
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長CEO兼CHRO
増田裕一
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(仮)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
会長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役 会長兼社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮

- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 岡野俊亮
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 竹中直文
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中本光子
- ・日興アセットマネジメント(株)
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本カイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・パトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)助放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舩曳真一郎

- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山西一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 貞広貴志
- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
笠井 徹
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田淵浩記
- ・YCC(株)
社長 | 中山武之
- ・渡辺敦郎・優子

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団へのご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいたしており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
2次元コードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

First Concertmaster: Sunao Goko

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Ayumu Iizuka
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Eri Kuribayashi
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikumi
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Kotaro Fujii
- Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Okii
- Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No. 2020

NHK Hall

October

19 (Sat) 6:00pm

20 (Sun) 2:00pm

conductor Herbert Blomstedt

concertmaster Yosuke Kawasaki

cover conductor Gergely Madaras*

◆ **Gergely Madaras:** Gergely Madaras is Music Director of the Orchestre Philharmonique Royal de Liège. Gergely was previously Music Director of the Orchestre Dijon Bourgogne and Chief Conductor of the Savaria Symphony Orchestra. He was born in Budapest in 1984, and was first attracted to Hungarian folk music at the age of 5, then turned to study classical music by learning flute, violin and composing. He graduated from the Flute Department of the Franz Liszt Academy of Music in Budapest and the Conducting Department of the University of Music and Performing Arts Vienna. In his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra in November 2023, he conducted a Hungarian program in the orchestra's subscription concert and was well received.

Arthur Honegger
Symphony No. 3, *Liturgique* [30']

- I Dies irae
- II De profundis clamavi
- III Dona nobis pacem

— intermission (20 minutes) —

Johannes Brahms
Symphony No. 4 E Minor Op. 98

[42']

- I Allegro non troppo
- II Andante moderato
- III Allegro giocoso
- IV Allegro energico e passionato

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Herbert Blomstedt, conductor



©Martin K. Empennin

Herbert Blomstedt, who celebrated his 97th birthday in July 2024, is the world's oldest conductor who is active on the podium. He was born in the United States in 1927 and moved to Sweden, his parents' home country, where he studied at music institutions including the Royal Swedish Academy of Music. He made his professional debut in 1954 conducting the Stockholm Philharmonic Orchestra, and after pursuing further experience at northern European orchestras including the Swedish Radio Symphony Orchestra, has served as Principal Conductor of the Staatskapelle Dresden, Music Director

of the San Francisco Symphony Orchestra, Music Director of NDR Sinfonieorchester (presently NDR Elbphilharmonie Orchester), Kapellmeister of the Gewandhausorchester Leipzig, to name a few. He has also guest-conducted the world's most prestigious orchestras, including the Berliner Philharmoniker and Wiener Philharmoniker.

His collaboration with the NHK Symphony Orchestra dates back to 1981, and he was made Honorary Conductor in 1986. Since 2013, he has returned to the orchestra's podium every year except 2020 and 2023, and was presented the title of Honorary Conductor Laureate in 2016. On this visit, he will present three programs which may illustrate his life as a conductor. The symphonies of Honegger and Brahms of program A will calmly resonate with Maestro Blomstedt, who was born the son of a minister and has led a devout Christian life in the Seventh-day Adventist Church. Program B is composed of Northern European works, his own roots, and Program C consists of Schubert's two major symphonies, which will reach deep into the heart. The music he creates with his baton will remain deeply engraved in the hearts of audience members and resonate for a long time.

[Herbert Blomstedt by Junko Shibatsuji, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Arthur Honegger (1892–1955)

Symphony No. 3, *Liturgique*

Born to Swiss parents in northern France, Honegger studied music in German-speaking Zurich, Switzerland, and in Paris. Together with Poulenc (1899–1963) and others, young Honegger formed in 1916 “Les Six (The Six),” the Parisian avant-garde group worshipping Satie’s simple language against all sorts of German late-Romantic excess. Nevertheless, Honegger’s individual taste and style partly due to his dual Swiss-French identity made him stand out as unique: he professed his admiration for Wagner – an enemy of “Les Six” –, besides owing a great deal to Richard Strauss and, above all, J.S. Bach.

Honegger wrote his Symphony No. 3 in 1945–1946 immediately after World War II, which seems to be related to the title *Symphony Liturgique* (*Liturgical*) and the names he gave to each movement after the Catholic Mass for the Dead and a Psalm. The Symphony, featuring “three characters who are real or symbolic: misfortune, happiness and man” (the composer’s words), opens with the barbaric first movement *Dies irae* (*Day of Wrath*) describing “the explosion of strength and of hate.” The slow middle movement *De profundis clamavi* (*From the Depth I Called to Thee*) is sorrowfully meditative. The final *Dona nobis pacem* (*Give Us Peace*) has the brutal march and then the serene Adagio section. Each of the three movements symbolically ends with the same melody in three different characters, which evokes the hopeful bird song from Honegger’s dramatic oratorio *Jeanne d’Arc au bûcher* (*Joan of Arc at the Stake* 1935).

A

19 & 20. OCT. 2024

Symphony No. 4 E Minor Op. 98

In Brahms' lifetime, the Viennese musical world was split into two camps: simply put, the conservatives worshipping Brahms' classicism against the progressives adoring the "future music" of Wagner. Brahms' approaches were in all truth forward-looking, however, it is true that he shaped his original voice by absorbing Classical and Baroque heritages, especially Beethoven's and J. S. Bach's.

While the Classical symphony as genre was on its last legs after Beethoven (and Schubert), Brahms in the Romantic era gave his four answers, each one different. With the Fourth completed in 1885 when he was 52, he looks back the most at the past – the Baroque and even earlier eras – adopting the Beethovenian Classical four-movement form. Interestingly, the Fourth has the unhappiest ending among all Brahms' symphonies, starting and culminating in a minor key against the example set by Beethoven whose Fifth (*Destiny*) attains the victorious major denouement through minor darkness.

The sonata movement in E minor – a main tonality rarely chosen for symphonies in general – begins Brahms' Fourth. He minutely builds the whole movement out of the opening descending two-note motif. The intermittent "heavily sighing" first theme given by the violins at the outset begins to establish this. Cellos and horns reveal the second theme over staccato accompaniment which has often been likened to the tango. The next slow movement starts solemnly with the horns' melody in a medieval church mode. The gusty third movement is the first scherzo Brahms wrote for the genre of the symphony following Beethoven, however, here Brahms surprises us doubly with his duple-time scherzo in sonata form. The finale is a colossal passacaglia, a form typical of the Baroque era of continuous variation on a given theme (usually a bass line). At the start, the winds announce in a high range the eight-chord theme which is said to be inspired by J. S. Bach's Cantata BWV150 *For Thee, O Lord, I long*. Thereafter come thirty-two variations and a coda where Brahms' masterly symphony ceases on a fervent E-minor chord.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2019

Suntory Hall

October

10 (Thu) 7:00pm

11 (Fri) 7:00pm

conductor **Herbert Blomstedt** | for a profile of Herbert Blomstedt, see p.48

clarinet **Kei Ito**

concertmaster **Sunao Goko**

cover conductor **Gergely Madaras** | for a profile of Gergely Madaras, see p.48

Jean Sibelius**4 Legends, sym. poem**—*The Swan of Tuonela* [10']**Carl Nielsen****Clarinet Concerto Op. 57** [24']

— intermission (20 minutes) —

Franz Adolf Berwald**Symphony No. 4 E-flat Major,*****Sinfonie naïve*** [30']

- I Allegro risoluto
- II Adagio
- III Scherzo: Allegro molto – Trio
- IV Finale: Allegro vivace

- All performance durations are approximate.

Artist Profile**Kei Ito**, clarinet

Kei Ito, born in Miyagi Prefecture, is a graduate of Tokyo University of the Arts. He has studied under Susumu Sengoku, Hiroyuki Hibino, Yusuke Noda, Masaharu Yamamoto, Hidemi Mikai and Yuji Murai to date, and has won 1st Prize at the 6th Japan Clarinet Competition in 2004. He also won a prize at the 74th Music Competition of Japan in 2006. He served as the soloist for Clarinet Concerto by Isang Yun at Tokyo University of

the Arts' concert titled Sozo-no Mori in 2014, and for Mozart's Clarinet Concerto in the special concert to celebrate the 30th anniversary of His Majesty the Emperor's accession to the throne in 2019. He has released many CDs including *Rêveusement*, an album of modern French works. He also teaches young musicians as a specially appointed associate professor at the Tokyo College of Music, and as a lecturer at Tokyo University of the Arts and Kunitachi College

of Music.

After working with The Geidai Philharmonia Orchestra, Tokyo, and the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, he was appointed Principal Clarinetist of the NHK Symphony Orchestra in 2011. He performed *Septet for Wind Instruments* by Hindemith in the NHK Symphony Chamber Music Concert in August 2022. The Clarinet Concerto he performs on this occasion is a concerto Nielsen wrote in his late years, and is a difficult work requiring a high technique. The audience can anticipate to hear an elegant yet impactful performance.

Program Notes | Kumiko Nishi

Jean Sibelius (1865–1957)

4 Legends, sym. poem—*The Swan of Tuonela*

The timeless pride of Finland, Sibelius left his double mark on music history, as an important symphonist following the pan-European tradition and as the establisher of the Finnish national identity in music. An early successful example of the latter is *Four Legends from the Kalevala* (also known as *Lemminkäinen Suite* after the eponymous hero), a set of four symphonic poems premiered in 1896. The *Kalevala* is Finland's mythological epic which led a national awakening through the second half of the nineteenth century and thus paved the way for the country's independence from Russian rule in 1917.

The Swan of Tuonela (completed in 1895, revised in 1897 & 1900) is the most popular of the cycle. Tuonela is, according to the first edition of the score, “the Hades of Finnish mythology” surrounded by “a large river of black water” on which “the swan of Tuonela glides majestically and sings.” Sibelius entrusted the role of this singing swan to the English horn: indeed, its pear-shaped bell, its long main body and its bocal (curved thin tube that the reed is attached to) remind us of a swan, whilst its plaintive tone fits the work's mysterious, mournful setting well. Depicting the scene with a vivid imagination, Sibelius, an eminent violinist as well, displays great ability as an ingenious orchestrator: especially, his meticulous treatment of the strings – divided into thirteen parts at the beginning – produces a remarkable effect throughout the work.

Carl Nielsen (1865–1931)

Clarinet Concerto Op. 57

The same age as Sibelius, Nielsen is certainly one of the most essential Danish and even Nordic composers. However, he didn't gain genuine international fame in his lifetime despite his catalogue distinguished both in quality and in quantity, including six unconventional, inventive, beautiful symphonies (premiered on his native soil between 1894 and 1925). He studied composition in Copenhagen under Gade (1817–1890) who also trained Grieg (1843–1907). While composing, Nielsen started his career as an orchestral violinist and later served as a conductor with the leading orchestras in the capital.

The Clarinet Concerto (1928) dates from Nielsen's final years. His source of inspiration was the Copenhagen Wind Quintet who gave the premiere of his Quintet in 1922: impressed by the members, Nielsen wrote the Flute Concerto (1927) for its flutist and then another

one for its clarinetist Aage Oxenvad who brilliantly premiered this technically demanding concerto in 1928. Regrettably, the next concerto was never completed as the composer passed away three years later. His compositional pace had already started to slow down in the early 1920s due to his failing health.

The Clarinet Concerto is written for a small-sized orchestra which unusually requires only a snare drum (instead of timpani) as percussion. This single-movement piece consists of four parts, having the slow Adagio and the scherzo-like ones in the middle. The final spirited part in march rhythm suddenly drops its speed towards the end to close the concerto in unexpected quietness: unpredictability is Nielsen's specialty.

Franz Adolf Berwald (1796–1868)

Symphony No. 4 E-flat Major, *Sinfonie naïve*

Born to a musical family in Stockholm, Berwald is of the same generation as Rossini (1792–1868) and Schubert (1797–1828). The Swedish composer is thought to have started violin lessons at five with his father who was the Court Orchestra's violinist. Treading in his father's footsteps, the son joined the orchestra as a violinist in 1812. Berwald's oldest existing compositions date from mid-1810s: he has since remained underrated as a composer particularly at home until 1867 – a year before his death at age 71 – when the Stockholm Conservatory appointed him professor of composition. For his living, he ran an orthopedic institute in Berlin and a glass factory in north Sweden, both with fair success.

Encouraged by the praise he got in 1842 for his symphonic poems in Vienna, Berwald wrote four symphonies in succession and gave them the French titles: No. 1 *sérieuse* (*Serious*) in G minor (1842), No. 2 *capricieuse* (*Capricious*) in D major (1842), No. 3 *singulière* (*Singular/Unusual*) in C major (1845) and No. 4 *naïve* (1845). Unfortunately, only No. 1 was heard publicly during his lifetime (incidentally, No. 2 was premiered in 1914 under the baton of Sibelius' brother-in-law Armas Järnefelt). As for No. 4 – contemporary with Schumann's Symphony No. 2 (1845–46) – , its premiere planned for 1848 in Paris was canceled due to the February Revolution. It was eventually first performed in 1878, ten years after Berwald's death.

All the four movements of the Symphony *naïve* are in major keys. The first sonata movement begins with a brief repeated-note fanfare immediately before the cellos throw a grand arc of the first theme. In contrast, the second theme hops around. The middle movements – the serene D-major Adagio and the carefree B-flat-major Scherzo in A–B–A form – are performed seamlessly without pause. The vivacious, playful finale returns to the main key (E-flat major). Its opening repeated-note call is reminiscent of the first movement's fanfare. This repeated-note element will be the driving force behind the surprise conclusion of this unique symphony.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 50

B

10 & 11. OCT. 2024

PROGRAM

C

Concert No.2021

NHK Hall

October

25 (Fri) 7:00pm

26 (Sat) 2:00pm

conductor

Herbert Blomstedt | for a profile of Herbert Blomstedt, see p.48

concertmaster

Yosuke Kawasaki

cover conductor

Gergely Madaras | for a profile of Gergely Madaras, see p.48

Franz Schubert
Symphony No. 7 B Minor D. 759,
Unvollendete (Unfinished Symphony)

[25']

I Allegro moderato

II Andante con moto

— intermission (20 minutes) —

Franz Schubert
Symphony No. 8 C Major D. 944,
***GroÙe (The Great)* [60']**

I Andante – Allegro ma non troppo

II Andante con moto

III Scherzo: Allegro vivace – Trio

IV Finale: Allegro vivace

- All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Franz Schubert (1797–1828)

Symphony No. 7 B Minor D. 759,
Unvollendete (Unfinished Symphony)

Not one of Schubert's symphonies had the opportunity to be officially heard during his lifetime, except for the ones written before 1818 (Nos. 1 to 6) which were privately performed by his fellows at the Imperial Seminary or by his friends gathering around the violinist Otto Hatwig.

The year 1818 was eventful: Schubert had his compositions' first-ever publication (*Lake Erlaf* D. 586) and first-ever public performance (*Overture in Italian Style* D. 590 or 591). After abandoning at least three symphonies in 1818–1821, the Viennese composer set to work in October 1822 on a symphony, dubbed *Unvollendete (Unfinished)* today for only the first and second movements are left to us completed in full orchestration. There are various theories about the reason(s). What we know about this likely biggest enigma in music history is limited:

in 1823, Schubert sent only the two movements to the Graz Music Society in return for the honorary diploma they awarded him. The scores were kept somehow in a drawer and unheard until in 1865, almost four decades after his passing.

The first sonata movement opens with a quiet, gloomy introduction: the low strings intone a three-note motif (B/C-sharp/D) which will recur throughout the movement. The second slow movement is, though in bright E major, still tinged with dimness particularly due to the desolate second theme in minor introduced on a clarinet. It concludes in celestial quietness as if posing an unanswered question about this unfinished but not imperfect masterwork.

Franz Schubert

Symphony No. 8 C Major D. 944, *Große* (*The Great*)

Schubert's No. 8 was forgotten, too. It was Schumann (1810–1856) who saved it from oblivion. The story goes back to 1826 when Schubert dedicated it to the Gesellschaft der Musikfreunde (Musikverein Wien) in return for making him a substitute member of its board of representatives. Receiving some honorarium, he attended the closed play-through of the work. Nevertheless, it had stayed buried until 1839 when Schumann visited the deceased composer's brother in Vienna and dug it up from the relics. The same year, the entire work was first performed publicly by Mendelssohn conducting the Gewandhausorchester Leipzig.

The subtitle of the work was posthumously given for convenience in distinction from Schubert's shorter symphony in the same key (D. 589), a. k. a. *Little C major*. However, his *Great* symphony obviously deserves this nickname in quantity and quality. Schumann famously praised its "heavenly length" comparing it to Jean Paul's great mighty novel.

Many suppose today that *The Great* was written during the summer of 1825. It is replete with ingenious harmonies and flowing melodies, as is usual with Schubert. The first movement has a significant introduction kicking off with a horn unison. The energetic crescendo leads to the fast sonata section, which treats the vivacious, dotted first theme (in the principal key) given by strings and the darkish second theme (unconventionally in E minor) by woodwinds. At the end, the opening unison melody resounds as if to come full circle. The next movement has a symmetric structure (A–B–A–B–A). The theme of section A first appears with the melancholic oboe solo, while the restful descending theme of section B is initiated by violins. The third movement in A–B–A form, has a graceful trio (B) section in waltz time. The high-spirited finale in sonata form begins with the fanfare-like first theme in C major, and later comes the melodious second theme in G major. From the start of the development onward, Schubert pays honor to Beethoven's Ninth Symphony (1824) by suggesting the *Ode to Joy*.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 50



25 & 26, OCT. 2024

The Subscription Concerts Program 2024–25

2024 10	A	Concert No. 2020	Honegger <i>Symphony No. 3, Liturgique</i> Brahms <i>Symphony No. 4 E Minor Op. 98</i>	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		October 19 (Sat) 6:00pm 20 (Sun) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor		
		NHK Hall			
	B	Concert No. 2019	Sibelius <i>4 Legends</i> Op. 22, sym. poem— <i>The Swan of Tuonela</i> Nielsen <i>Clarinet Concerto</i> Op. 57 Berwald <i>Symphony No. 4 E-flat Major, Sinfonie naïve</i>	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		October 10 (Thu) 7:00pm 11 (Fri) 7:00pm	Herbert Blomstedt, conductor Kei Ito (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet		
		Suntory Hall			
	C	Concert No. 2021	Schubert <i>Symphony No. 7 B Minor D. 759, Unvollendete (Unfinished Symphony)</i> Schubert <i>Symphony No. 8 C Major D. 944, Große (The Great)</i>	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		October 25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor		
		NHK Hall			
2024 11	A	Concert No. 2022	Roussel <i>Bacchus et Ariane</i> , ballet Op. 43—Suite No. 1 (<i>Bacchus and Ariadne</i>) Bartók <i>Piano Concerto</i> No. 3 Ravel <i>Valses nobles et sentimentales (Noble and Sentimental Waltzes)</i> Debussy <i>Images for Orchestra—Iberia</i>	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
		November 9 (Sat) 6:00pm 10 (Sun) 2:00pm	Kazuki Yamada, conductor Francesco Piemontesi, piano		
		NHK Hall			
	B	Concert No. 2024	Tchaikovsky <i>Violin Concerto</i> D Major Op. 35 Prokofiev <i>The Tale of Stone Flower</i> , ballet — <i>The Mistress of the Copper Mountain, Wedding Suite</i> Stravinsky <i>Symphony in Three Movements</i>	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		November 21 (Thu) 7:00pm 22 (Fri) 7:00pm	Dima Slobodeniouk, conductor Nikita Borisov-Glebsky, violin		
		Suntory Hall			
	C	Concert No. 2023	Wagner <i>Tannhäuser</i> , opera—Overture Weinberg <i>Trumpet Concerto</i> B-flat Major Op. 94 Shostakovich <i>Symphony No. 5 D Minor Op. 47</i>	Ordinary S 10,000 A 8,500 B 6,500 C 5,400 D 4,300 E 2,200	Youth S 5,000 A 4,000 B 3,100 C 2,550 D 1,500 E 1,000
		November 15 (Fri) 7:00pm 16 (Sat) 2:00pm	Andrés Orozco-Estrada, conductor Reinhold Friedrich, trumpet		
		NHK Hall			
2024 12	A	Concert No. 2025	The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Birth Wagner <i>Tristan und Isolde (Tristan and Isolde)—Prelude and Liebestod</i> R. Strauss <i>Das Rosenband</i> Op. 36-1 (<i>The Rose Chain</i>)* R. Strauss <i>Freundliche Vision</i> Op. 48-1 (<i>A Welcome Vision</i>)* R. Strauss <i>Waldseligkeit</i> Op. 49-1 (<i>Bliss in the Woods</i>)* R. Strauss <i>Befreit</i> Op. 39-4 (<i>Released</i>)* R. Strauss <i>Morgen</i> Op. 27-4 (<i>Tomorrow</i>)* Schönberg <i>Pelleas and Melisande</i> Op. 5 (<i>Pelléas and Mélisande</i>) Fabio Luisi, conductor Christiane Karg, soprano*	Ordinary S 11,000 A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	Youth S 5,500 A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		Nov. 30 (Sat) 6:00pm Dec. 1 (Sun) 2:00pm	—The 1st day concert of the December subscription Program A will be held in November.		
		NHK Hall			
	B	Concert No. 2026	Smetana <i>The Bartered Bride</i> , opera—Overture Rakhmaninov <i>Piano Concerto</i> No. 3 D Minor Op. 30 Mussorgsky / Ravel <i>Pictures at an Exhibition</i> , suite	Ordinary S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	Youth S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		December 5 (Thu) 7:00pm 6 (Fri) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Nelson Goerner, piano		
		Suntory Hall			
	C	Concert No. 2027	Liszt <i>Tasso: lamento e trionfo</i> , sym. poem (<i>Tasso: Lament and Triumph</i>) Liszt <i>Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern</i> (<i>A Faust Symphony in Three Character Pictures</i>)*	Ordinary S 13,000 A 11,000 B 8,500 C 7,000 D 5,600 E 3,500	Youth S 6,500 A 5,200 B 4,000 C 3,500 D 2,000 E 1,700
		December 13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Jamez McCorkle, tenor* Tokyo Opera Singers, male chorus*		
		NHK Hall			

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

A**NHK Hall**Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)**B****Suntory Hall**Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)**C****NHK Hall**Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)**2025
01****A**Concert No. **2028****January****18** (Sat) 6:00pm**19** (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Shostakovich Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
\$ 11,000	\$ 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

BConcert No. **2030****January****30** (Thu) 7:00pm**31** (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mussorgsky / Liadov *The Fair at Sorochyntsi*, opera—*Introduction, Gopak***Bartók** Violin Concerto No. 2
Dvořák Symphony No. 8 G Major Op. 88Tugan Sokhiev, conductor
Sunao Goko (First Concertmaster, NHKSO), violin

Ordinary	Youth
\$ 12,000	\$ 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

CConcert No. **2029****January****24** (Fri) 7:00pm**25** (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Stravinsky *Pulcinella*, ballet
Brahms Symphony No. 1 C Minor Op. 68

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
\$ 11,000	\$ 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

**2025
02****A**Concert No. **2031****February****8** (Sat) 6:00pm**9** (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Zemlinsky *Sinfonietta*, Op. 23
R. Strauss Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11
Dvořák *The Wild Dove*, sym. poem Op. 110
Janáček *Sinfonietta*Petr Popelka, conductor
Radek Baborák, horn

Ordinary	Youth
\$ 10,000	\$ 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

BConcert No. **2032****February****13** (Thu) 7:00pm**14** (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Mozart *Vado, ma dove?*, aria K. 583*
Mozart *Alma grande e nobil core*, aria K. 578*
Mozart Symphony No. 25 G Minor K. 183
Mozart *Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528*
Schumann Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38, *Frühlingssinfonie* (*Spring Symphony*)

Petr Popelka, conductor Ema Nikolovska, mezzo soprano*

Ordinary	Youth
\$ 12,000	\$ 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

CConcert No. **2033****February****21** (Fri) 7:00pm**22** (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Suppè *Leichte Kavallerie*, operetta—Overture (*Light Cavalry*)
Saint-Saëns Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61
Suppè *Dichter und Bauer*, operetta—Overture (*Poet and Peasant*)
Offenbach / Rosenthal *Gaîté Parisienne*, ballet (Excerpts) (*Parisian Gaiety*)Tatsuya Shimono, conductor
Fumiaki Miura, violin

Ordinary	Youth
\$ 10,000	\$ 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

**2025
04****A**Concert No. **2034****April****12** (Sat) 6:00pm**13** (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Berlioz *Harold en Italie*, symphony (*Harold in Italy*)*
Prokofiev Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)Paavo Järvi, conductor
Antoine Tamestit, viola*

Ordinary	Youth
\$ 11,000	\$ 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

BConcert No. **2035****April****17** (Thu) 7:00pm**18** (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Stravinsky *Petrushka*, ballet (Complete, 1947 Version)
Britten Piano Concerto Op. 13
Prokofiev *The Love for Three Oranges*, symphonic suite Op. 33bisPaavo Järvi, conductor
Benjamin Grosvenor, piano

Ordinary	Youth
\$ 12,000	\$ 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C**There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.**

2025
05

A

Concert No. 2036

April

26 (Sat) 6:00pm

27 (Sun) 2:00pm

- Program A of the May subscription concerts will be held in April.

NHK Hall

The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025

Mahler Symphony No. 3 D Minor

Fabio Luisi, conductor

Olesya Petrova, mezzo soprano

Tokyo Opera Singers, female chorus

NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

Ordinary	Youth
S 15,000	S 7,000
A 12,500	A 6,000
B 10,000	B 5,000
C 8,000	C 4,000
D 6,500	D 3,000
E 4,500	E 2,000

B

Concert No. 2037

May

1 (Thu) 7:00pm

2 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

The Program scheduled to be performed at Mahler Festival 2025 (only Mahler)

Berg Violin Concerto

Mahler Symphony No. 4 G Major*

Fabio Luisi, conductor

Akiko Suwanai, violin Maki Mori, soprano*

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. 2038

May

30 (Fri) 7:00pm

31 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Schubert *Rosamunde*, overture

Dohnányi *Variations on a Nursery Tune*, Op. 25*

R. Strauss Symphonic Fantasy from *Die Frau ohne Schatten*
(*The Woman without a Shadow*)

R. Strauss Suite from *Der Rosenkavalier* (*The Rose-Bearer*)

Giedrė Šlekytė, conductor

Mao Fujita, piano*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2025
06

A

Concert No. 2039

June

7 (Sat) 6:00pm

8 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Rimsky-Korsakov *May Night*, opera—Overture

Rakhmaninov *Rhapsody on a Theme of Paganini*, Op. 43*

Tchaikovsky Symphony No. 6 B Minor Op. 74, *Pathétique*

Vladimir Fedoseyev, conductor

Yulianna Avdeeva, piano*

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

B

Concert No. 2040

June

12 (Thu) 7:00pm

13 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

Ibert Flute Concerto

Bruckner Symphony No. 6 A Major

Juanjo Mena, conductor

Karl-Heinz Schütz, flute

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

C

Concert No. 2041

June

20 (Fri) 7:00pm

21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Korngold Violin Concerto D Major Op. 35

Mahler Symphony No. 1 D Major, *Titan*

Tarmo Peltokoski, conductor

Daniel Lozakovich, violin

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも



お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域の一部は延長2週間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧くださいませ

※放送受信規約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

アプリで便利に！

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FM
の放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでも
お楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる！
聴き逃し

放送終了後1週間 /
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

伝えるチカラ

NHK 財団

◎ 公共メディアNHKを社会へ

◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの
一般財団法人が合併して、NHK財団
が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進
めていきます。

ステラ
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

NHK こども 音楽クラブ

「NHKこども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

各公演の動画が
ホームページで
ご覧いただけます



[https://www.nhk.or.jp/event/
kodomo-ongaku/](https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/)

N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。

N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート「N響ほっとコンサート」、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組みなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

優れた音楽家を育てる

1950年代に「指揮研究員」制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に「N響アカデミー」を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

平石章人、湯川紘恵

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨

ヴィオラ：和田志織 コントラバス：桑原孝太郎
クラリネット：浦畑尚吾
(2024年10月1日現在)

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひと時をお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れてきました。

国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して外国人留学生を公演に招待しているほか、演奏指導などを通じてベトナム国立交響楽団との交流を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したガイドライン作りに役立ちました。2021年からは東京工科大学の授業の一環に協力してN響コンサートのYouTube配信を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたずさえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

役員等・団友

役員等

理事長	中野谷 公一							
常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子						
理事	相川直樹	内永ゆかり	岡田知之	杉山博孝	銭谷真美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛
監事	春原雄策		濱村和則					
評議員	稲葉延雄	江頭昭雄	樺山絃一	菅原直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子
	中嶋太一	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修			

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	特別主幹	芸術主幹
岩渕一真	森下文典	野村 歩	吉田麻子	西川彰一
丸山千絵	猪股正幸	三浦七菜子	今村啓一	
石井 康	吉賀亜希	目黒重治	杉山真知子	技術主幹
利光敬司	宮崎則匡	山本能寛	尾澤 勉	

団友

鶴我裕子	チェロ	北島 章	来馬 賢	ピアノ	入江哲之
徳永二男		浜 道晃	関山幸弘		金沢 孝
中瀬裕道	岩井雅音	茂木大輔	津堅直弘	本荘玲子	小林文行
名譽コンサート マスター	永峰高志		柘本浩規		清水永一郎
	根津昭義	クラリネット	福井 功	理事長	関 照枝
堀 正文	堀江 悟	磯部周平	佛坂映千生		中馬 究
	前澤 均	加藤明久		曾我 健	出口修平
ヴァイオリン	宮里親弘	横川晴児	トロンボーン	田畑和宏	西村集介
	武藤伸二		伊藤 清	野島直樹	芳賀由明
板橋 健	村上和邦	ファゴット	神谷 敏	日向英爽	松崎ユリ
梅澤美保子	山口裕之		栗田雅勝	木田幸紀	望戸一男
海野義雄	蓬田清重	岡崎耕治	三輪純生	森 茂雄	諸岡 淳
大澤 淨		霧生吉秀		今井 環	吉田博志
大林修子	コントラバス			根本佳則	渡辺克
大松八路	ヴィオラ	井戸田善之	テューバ		渡辺克己
金田幸男	大久保淑人	志賀信雄		役員	
川上朋子	小野富士	佐川裕昭	多戸幾久三		加納民夫
川上久雄	梯 孝則	新納益夫	原田元吉		唐木田信也
窪田茂夫	河野昌彦	フルート	打楽器		齋藤 滋
黒柳紀明	菅沼準二				関川精二
公門俊之	店村真積	菅原 潤			鳴嶋郁夫
齋藤真知亜	田淵雅子	細川順三			原 武
酒井敏彦	中竹英昭	宮本明恭			山崎大樹
清水謙二	三原征洋		トランペット		
鈴木弘一	村山 弘				事務局
田淵 彰	渡部啓三	オーボエ	井川明彦		
田中 裕		青山聖樹	北村源三		稲川 洋

フィルハーモニー2024年10月号 | 第96巻 第7号
2024年10月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一)財NHK財団
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

目の眼倶楽部オンラインストア

目の眼倶楽部 会員募集中

骨董 古美術誌『目の眼』が新サービスを開始!
紙版雑誌の年間購読か、デジタル読み放題サ
ービスのご利用か、2つのプランをご用意しています。



有料会員 雑誌プラン
年額12,000円(税込・送料込)



紙版雑誌『目の眼』を隔月お届け

骨董 古美術誌『目の眼』紙版最新号を、ご指
定先へ年間6冊お届けします。1冊ずつ(2,420
円)のお求めよりお得です。

*開始号は、10月号か12月号のどちらかをお選びいた
だけます。

有料会員 デジタルプラン
月額利用料880円(税込)



雑誌『目の眼』の全てをデジタル読み放題

全バックナンバーから最新号まで閲覧可能。
さらに10月からは、当プラン利用者だけが
読める雑誌『目の眼』電子増刊号もご覧い
ただけます。



『目の眼』電子増刊号は、10/15配信開始

デジタルプランの会員だけが読める『目の眼
電子増刊号』がスタートします。10/15号は「図
解 骨董 古美術の基本のキホン～日本のやき
もの編」特集です。今さら聞けない骨董・古
美術の基礎知識をイラスト付で紹介します。

お申込みは、目の眼倶楽部オンラインストア

club.menomeonline.com

目の眼倶楽部 🔍 検索



NHK 音楽祭

NHK MUSIC FESTIVAL

2024

ラトル首席指揮者就任後、初の来日！
新時代を迎えるオケがいさなう、
マーラーの深淵

世界に名を馳せる名門ブラスバンド、
壮大さと繊細さを兼ね備えた
鮮やかなコントラストがもたらす、
音楽の喜び

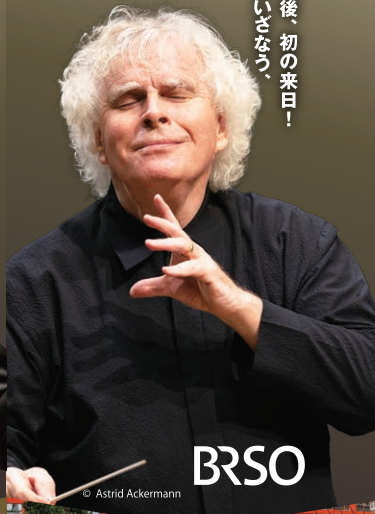
「音の魔術師」デュトワ、
N響との原点「春の祭典」で熱狂を再び！
ロシア・ピアノニズムの真骨頂
ルガンスキーによるラフマニノフも必聴



© John Strizaker



© Chris Lee



© Astrid Ackermann



© 堀田力丸



写真提供：NHK 交響楽団



© Astrid Ackermann

10月28日(月) 19:00開演
ブラック・ダイク・バンド

指揮：ニコラス・チャイルズ

ピアソラ／リベルタンゴ
ラヴェル／ボレロ
ジョン・ウィリアムズ／
映画「ハリ・ポッター」シリーズから
ほか

10月30日(水) 19:00開演
NHK交響楽団

指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：ニコライルガンスキー

ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番[※]短調作品18
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」
共催：NHK交響楽団 協賛：岩谷産業

11月28日(木) 19:00開演
**バイエルン
放送交響楽団**

指揮：サイモン・ラトル

パートウイッセル／
サイモンへの贈り物 2018
マーラー／交響曲第7番[※]短調「夜の歌」

NHKホール

前売券 好評販売中

入場料 (消費税込)

公演	公演日	開演	観覧料	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-29席
ブラック・ダイク・バンド	10/28 (月)	19:00 21:00			6,000	5,000	4,000	3,000		
NHK交響楽団	10/30 (水)	19:00 21:00		17,000	15,000	12,000	8,000	6,000	4,000	2,500
バイエルン放送交響楽団	11/28 (木)	19:00 21:00		33,000	28,000	24,000	17,000	12,000	8,000	3,500

割引チケットのご案内

N響とバイエルン放送響を同時に公演お申込みいただいた場合、料金が5%割引になります。取り扱いは、NHKプロモーションのインターネット受付「電話予約」のみです。詳しくは、NHKプロモーションまでお問い合わせください。※ブラック・ダイク・バンド公演は、割引対象外です。

学生優待料

※学生優待料は、別途お申し込みが必要です。

●お問い合わせ

ハローダイヤル 050-5541-8600 / 9:00~20:00(無休)
NHKホームページ <http://nhk.jp/event>

NHKプロモーション 音楽祭係

TEL. 03-3468-7736 / 平日11:00~17:00

<https://www.nhk-p.co.jp/>



かんぽ生命 presents

N響 第九

Special Concert

バッハ/トッカータとフーガ ヘ長調 BWV 540

Bach Toccata and Fugue F Major BWV 540

オルガン: 中田恵子
Keiko Nakata, organ

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, Choral

2024年12月23日(月) 7:00pm

サントリーホール

Monday, December 23, 2024 Suntory Hall

一般: S ¥20,000 A ¥16,500 B ¥13,000 C ¥9,000

ユースチケット(29歳以下): S ¥10,000 A ¥8,200 B ¥6,500 C ¥4,500 ※全て税込価格

チケット発売開始: 9月29日(日) 10:00am

N響定期会員先行発売日: 9月25日(水) 10:00am [定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502 (営業日・営業時間)はN響ホームページでご確認ください)

前売所

- WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド 0570-02-9502
- サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 suntory.jp/HALL/
- チケットびあ pia.jp/t/nhkso
- e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット l-tike.com/nhkso

- ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。● 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。● 車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。● N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。● やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。● 未就学児のご入場はお断りしています。● 公演に関する最新の情報はN響ホームページでご確認ください。

© Yusuke Miyazaki(SEPT)

指揮: ファビオ・ルイーヂ
(NHK交響楽団 首席指揮者)

Fabio Luisi, conductor



ソプラノ
ヘンリエット・
ボンデ・ハンセン
Henriette
Bonde-Hansen,
soprano



メゾ・ソプラノ
藤村実穂子
Mihoko Fujimura,
mezzo soprano



テノール
ステュアート・
スケルトン
Stuart Skelton,
tenor



バス・バリトン
トマス・トマソン
Tómas Tómasson,
bass-baritone

合唱: 新国立劇場合唱団
New National Theatre Chorus, chorus

N響第9

NHK交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

ベートーヴェン
交響曲 第9番 ニ短調
作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No.9 D Minor Op.125, Choral

2024年 12/18(水)7:00pm | 12/19(木)7:00pm
12/21(土)2:00pm | 12/22(日)2:00pm | 12/24(火)7:00pm*

NHKホール

*12月24日はNHK/NHK厚生文化事業団主催の
チャリティコンサートです

指揮: **ファビオ・ルイーヂ**
(NHK交響楽団 首席指揮者)

合唱: 新国立劇場合唱団

©Yusaku Miyazaki (SEPT)



ソプラノ:
ヘンリエッテ・
ボンデ・ハンセン



メゾ・ソプラノ:
藤村 実穂子



テノール:
スチュアート・
スケルトン



バス・バリトン:
トマス・トマソン

お問い合わせ

N響ガイド: 0570-02-9502

(営業日・営業時間は

N響ホームページでご確認ください)

NHK厚生文化事業団: 03-3476-5955

(24日公演のみ、平日10:00am~6:00pm)

主催: NHK/NHK交響楽団
主催(24日): NHK/NHK厚生文化事業団

協賛: みずほ証券株式会社
はごろもフーズ株式会社
株式会社明電舎

チケット発売開始

9月29日(日) 10:00am

N響定期会員先行発売日: 9月25日(水) 10:00am

料金(税込)

一般 S ¥17,000 A ¥13,500 B ¥10,000 C ¥7,500 D ¥5,000

ユースチケット(29歳以下) S ¥8,500 A ¥6,750 B ¥5,000 C ¥3,750 D ¥2,500

ユースチケット対象年齢を拡大。25歳以下~29歳以下に ※定期会員は一般料金から10%割引

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

N響ガイド 0570-02-9502

ローンチケット l-tike.com/nhkso

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

●ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイド(24日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更になる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。